令和元年度
男女平等・男女共同参画に関する
多摩市職員意識及び実態調査報告書

令和２年１１月

多摩市

目　次

第１章　調査の概要 …… 1
１．調査実施の目的 …… 3
２．調査の対象 …… 3
３．調査方法と回収状況 …… 3
４．調査項目 …… 3
５．報告書の見方 …… 4

第２章　調査結果の詳細 …… 5
１．回答者のプロフィール …… 7
（１）性別 …… 7
（２）年代 …… 7
（３）家族構成（同居） …… 8
（４）結婚について …… 8
（５）夫婦の働き方 …… 9
（６）子どもの有無 …… 9
（７）末子の成長段階 …… 10
（８）職務区分 …… 10
（９）居住地域 …… 10
２．男女平等参画・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について …… 11
（１）分野別の男女の地位の平等感 …… 11
（２）性別役割分担意識 …… 13
（３）女性が職業を持つことについて …… 15
（４）暴力を受けた経験（異性に対する暴力、ＤＶなど） …… 16
（５）地域や趣味、学習などの活動への参加経験 …… 17
３．あなたの仕事・職場について …… 18
（１）仕事のやりがいの有無 …… 18
（２）仕事上の悩み …… 19
（３）市役所における男女の地位の平等感 …… 20
（４）女性管理職が少ない原因 …… 22
（５）女性管理職が増えることによるメリット …… 23
（６）将来就きたい役職 …… 24
（７）課長職以上になりたくない理由 …… 25
（８）職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験 …… 26
（９）育児・介護休暇の取得・意向 …… 27
（１０）育児・介護休暇の取得に抵抗がある理由 …… 28
４．性の多様性について …… 29
（１）性的少数者に関する言葉の認知度 …… 29
（２）同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性 …… 30

５．男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策について ····· 32
（１）男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要なこと ····· 32
（２）男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な取組み ····· 33
６．自由記述 ····· 34
７．調査のまとめ ····· 35
男女平等・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について ····· 35
あなたの仕事・職場について ····· 37
性の多様性について ····· 40
男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策について ····· 41

第３章　調査票 ····· 43

第１章　調査の概要

１．調査実施の目的

多摩市職員の男女平等・男女共同参画に関する意識及び実態について調査を行い、課題及び問題点を把握し、女と男がともに生きる行動計画策定のための資料とする。

２．調査の対象

多摩市に勤務する常勤職員（令和２年２月１日　現在）

３．調査方法と回収状況

調査方法：多摩市総合事務管理システムを利用しての電子アンケート調査

調査期間：令和２年２月３日（月）～２月１３日（木）

＜回収状況＞

	配信数	回収数	回収率
全数	926	499	53.9%
女性	388	201	51.8%
男性	538	281	52.2%
その他	－	2	－
無回答	－	15	－

４．調査項目

調査項目	設問のねらい	調査内容	R2調査	H27調査
1　男女平等参画・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について	過年度調査との比較による意識の変化及び、日常生活の各場面における役割分担の実態を探る	問１　分野別の男女の地位の平等感	○	○
		問２　性別役割分担意識	○	○
		問３　女性が職業を持つことについて	○	○
		問４　暴力を受けた経験（異性に対する暴力、ＤＶなど）	○	○
		問５　地域や趣味、学習などの活動への参加経験	○	○
2　あなたの仕事・職場について	就業実態と意向や要望を探る	問６　仕事のやりがいの有無	○	○
		問７　仕事上の悩み	○	○
		問８　市役所における男女の地位の平等感	○	○
		問９　女性管理職が少ない原因	○	○
		問10　女性管理職が増えることによるメリット	○	○
		問11　将来就きたい役職	○	○
		付問　課長職以上になりたくない理由	○	○
		問12　職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験	○	○
		問13　育児・介護休暇の取得・意向	○	○
		付問　育児・介護休暇の取得に抵抗がある理由	○	○

調査項目	設問のねらい	調査内容	R2調査	H27調査
3　性の多様性について	性の多様性の認知度・理解・意識を探る	問14 性的少数者に関する言葉の認知度 問15 同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性	○ ○	
4　男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策についていて	男女平等・男女共同参画を進める施策へのニーズをみる	問16 男女平等・男女共同参画社会を実現するために大切なこと 問17 男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な取組み	○ ○	○ ○
5　回答者のプロフィール	男女別、年代別等のクロス集計に係る属性指標	Ｆ１ 性別 Ｆ２ 年代 Ｆ３ 家族構成（同居） Ｆ４ 結婚について 付問 夫婦の働き方 Ｆ５ 子どもの有無 付問 末子の成長段階 Ｆ６ 職務区分 Ｆ７ 居住地域	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

５．報告書の見方

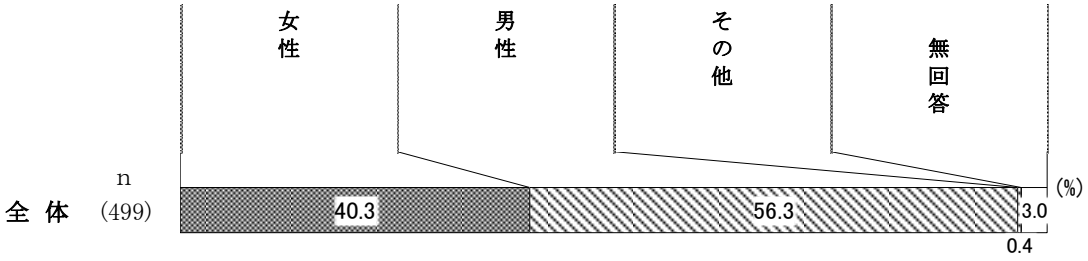
・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。
・百分率（％）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示した。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
・性別の選択肢「その他」の回答数が「２」であったため、報告書中の性別に係るグラフ集計においては、全体数には計上されているが「その他」としての掲載は、「基本属性（１）性別」の箇所以外では行っていない。これは回答の傾向をみるにあたり、十分な母数に達さなかったためである。

第２章　調査結果の詳細

１．回答者のプロフィール

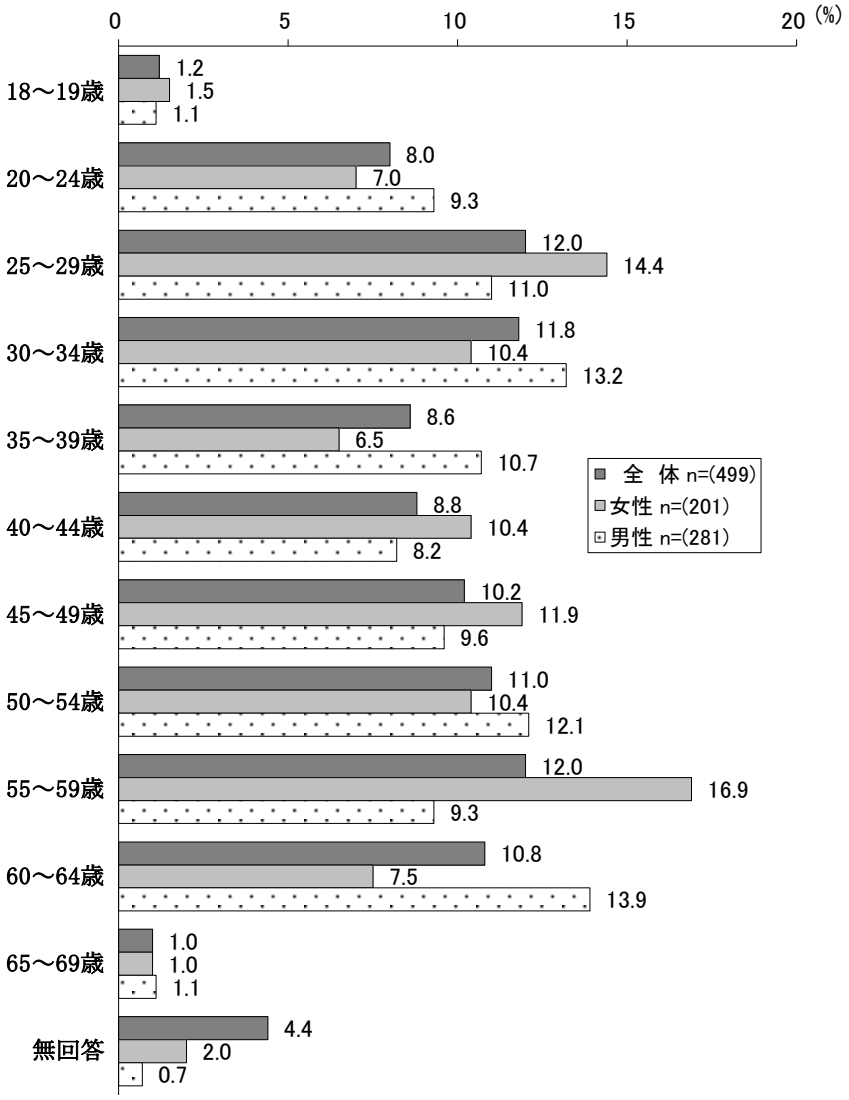
（１）性別

回答者の男女比をみると、女性が約４割（40.3%）、男性が約６割（56.3%）となっている。



（２）年代

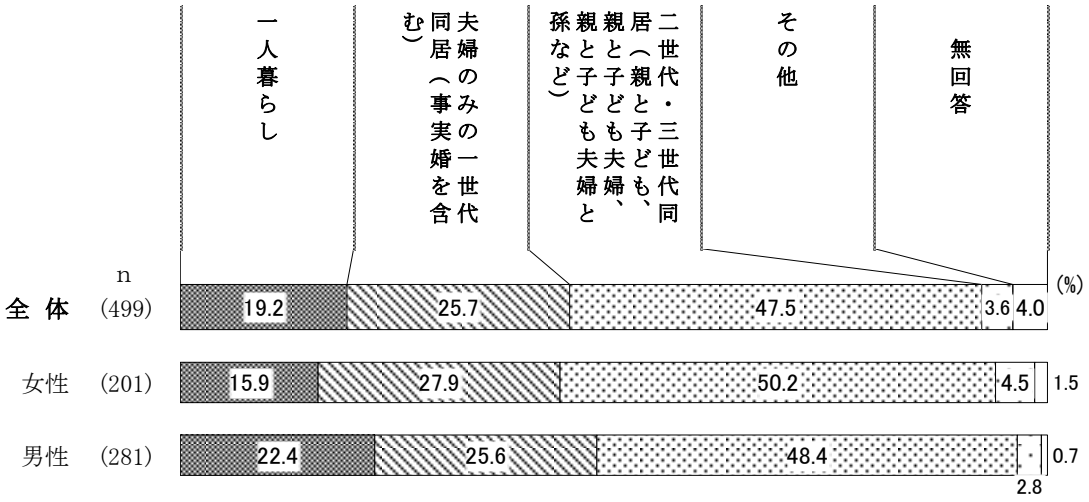
回答者の年代をみると、「25～29歳」と「55～59歳」が12.0%と多く、次いで「30～34歳」（11.8%）となっている。性別にみると、女性は「55～59歳」と「25～29歳」が多く、男性は「60～64歳」と「30～34歳」が多くなっている。



（３）家族構成（同居）

家族構成をみると、「二世代・三世代同居」が約５割（47.5%）となっており、次いで「夫婦のみの一世代同居（事実婚を含む）」が約３割（25.7%）となっている。

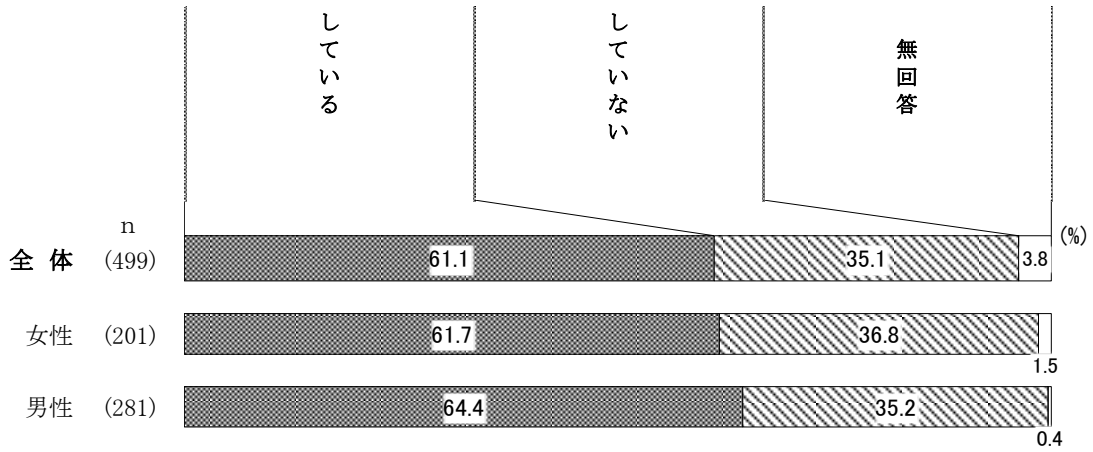
性別にみると、男女ともに「二世代・三世代同居」が最も多く、次いで「夫婦のみの一世代同居（事実婚を含む）」となっている。「一人暮らし」は、男性が女性を上回っている。



（４）結婚について

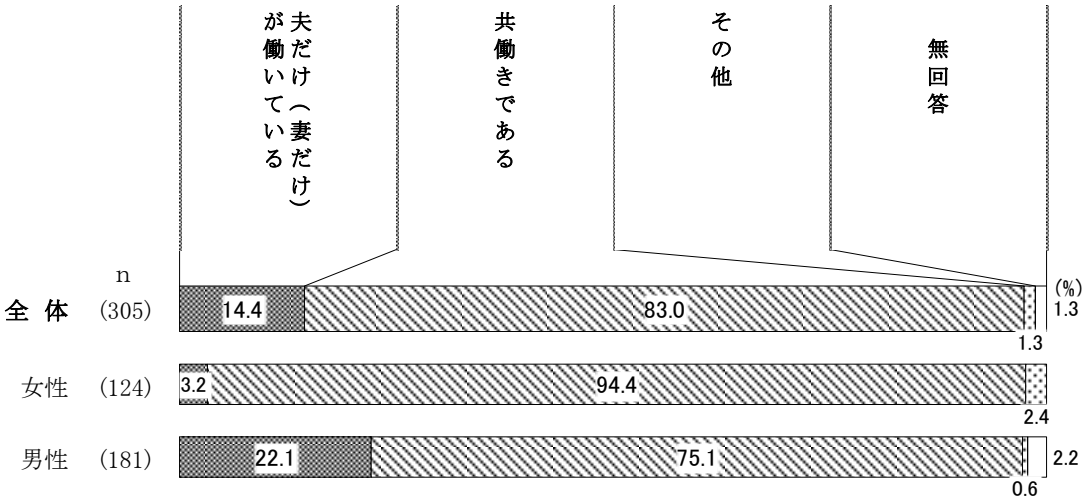
結婚（事実婚を含む）の状況をみると、「している」が約６割（61.1%）となっている。

性別でも同様の傾向がみられる。



（５）夫婦の働き方

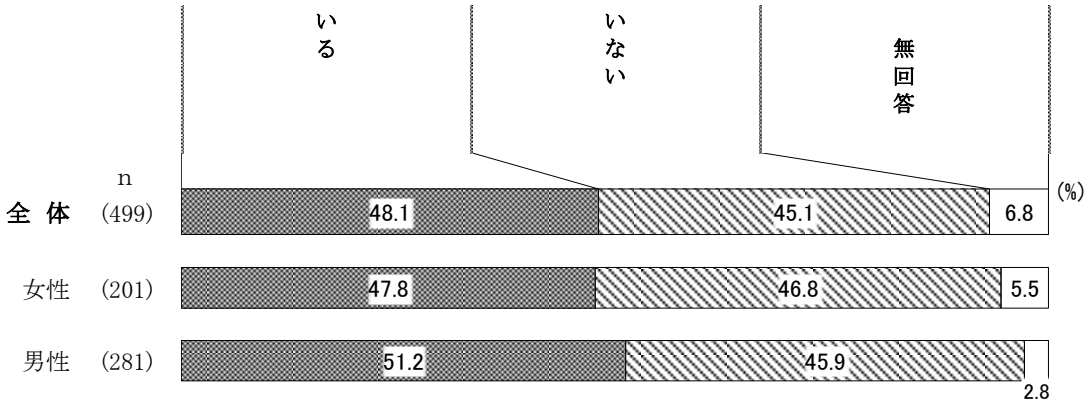
夫婦の働き方をみると、「共働きである」が約８割（83.0%）、「夫だけ（妻だけ）が働いている」が約１割（14.4%）となっている。性別にみると、「共働きである」は女性で約９割（94.4%）、男性で約８割（75.1%）と、女性が男性を大きく上回っている。



（６）子どもの有無

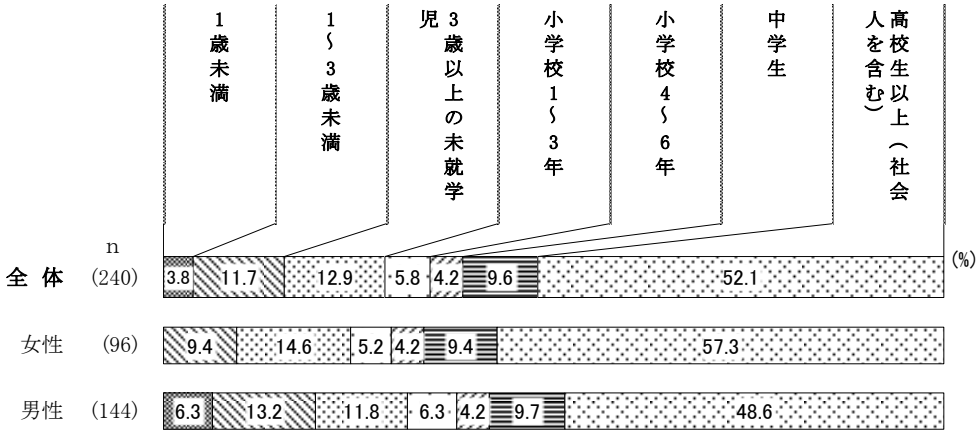
子どもの有無をみると、「いる」と「いない」が同程度となっている。

性別でも同様の傾向がみられる。



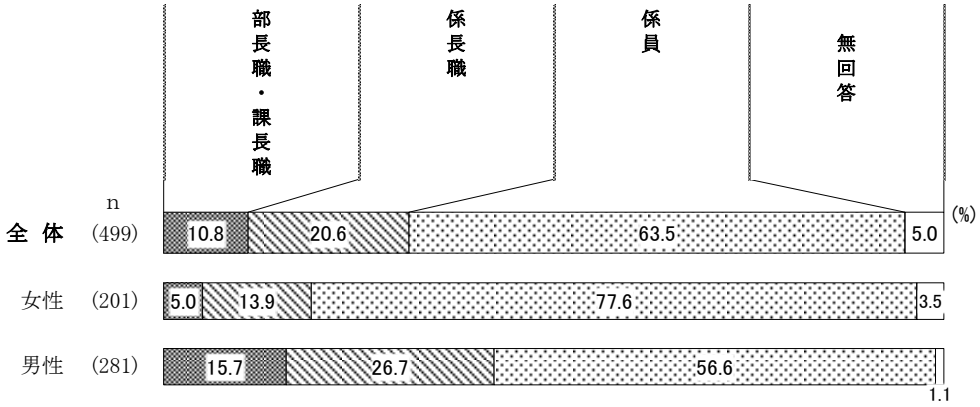
（７）末子の成長段階

子どものいる回答者の末子の成長段階をみると、「高校生以上」が約５割（52.1%）と最も多くなっている。未就学児（「１歳未満」、「１～３歳未満」、「３歳以上の未就学児」の合計）は全体の約３割（28.4%）で、女性が約２割（24.0%）、男性が約３割（31.3%）となっている。



（８）職務区分

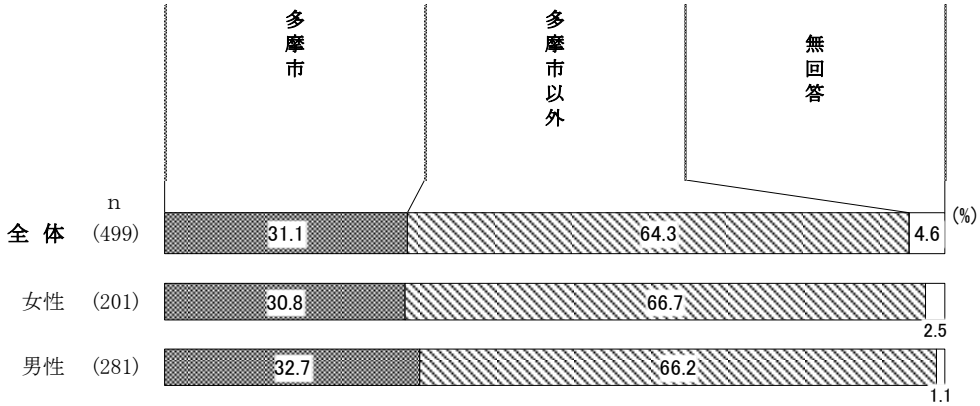
職務区分をみると、「係員」が約６割（63.5%）と最も多くなっている。性別にみると、「係員」は女性で約８割（77.6%）、男性で約６割（56.6%）と、女性が男性を大きく上回っている。男性は「部長職・課長職」が約２割（15.7%）、「係長職」が約３割（26.7%）と、それぞれ女性を上回っている。



（９）居住地域

居住地域をみると、「多摩市以外」が約６割（64.3%）となっている。

性別でも同様の傾向がみられる。



２．男女平等参画・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について

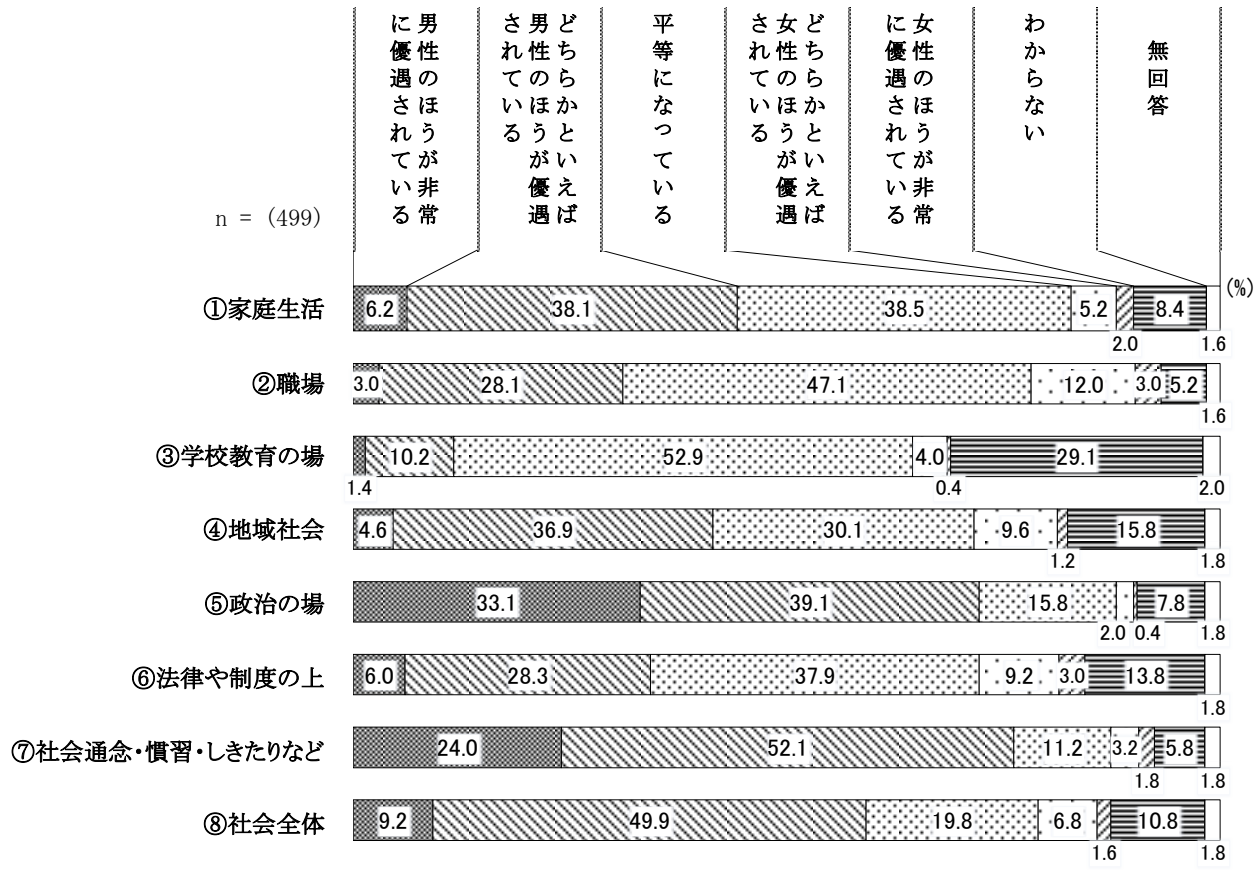
（１）分野別の男女の地位の平等感

問１　あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になってると思いますか。①から⑧のそれぞれについてあてはまるものを１つずつ選んでください。

分野別の男女の地位の平等感について、「平等になっている」が最も多い分野は、『学校教育の場』約５割（52.9%）となっており、次いで『職場』約５割（47.1%）、『家庭生活』約４割（38.5%）、『法律や制度の上』約４割（37.9%）となっている。一方で、『学校教育の場』で、「わからない」は約３割（29.1%）と、「平等になっている」に次いで多くなっている。

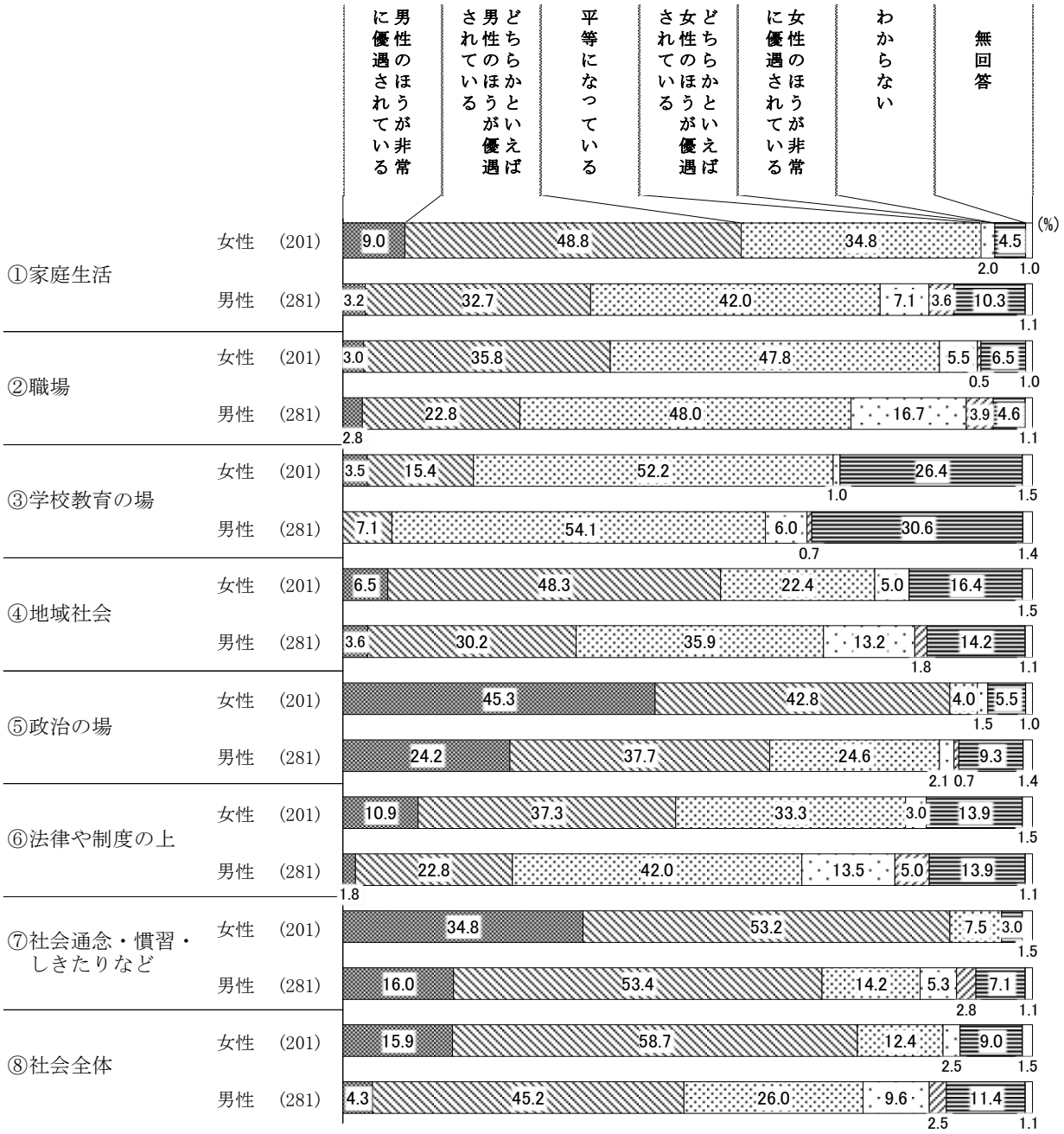
＜男性優遇＞（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）は、『社会通念・慣習・しきたりなど』で約８割（76.1%）、『政治の場』で約７割（72.2%）となっている。『社会全体』では約６割（59.1%）となっている。

＜女性優遇＞（「女性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計）は、『職場』約２割（15.0%）、『法律や制度の上』約１割（12.2%）、『地域社会』約１割（10.8%）と続いている。『社会全体』では１割未満（8.4%）となっている。



■分野別の男女の地位の平等感　性別

性別にみると、すべての分野で＜男性優遇＞は女性が男性を上回り、特に『政治の場』で女性（88.1%）が男性（61.9%）より約26ポイント、『社会全体』は女性（74.6%）が男性（49.5%）を約25ポイント上回っている。また、すべての分野で「平等になっている」は男性が女性を上回り、特に『政治の場』で男性（24.6%）が女性（4.0%）を約21ポイント上回っている。



（２）性別役割分担意識

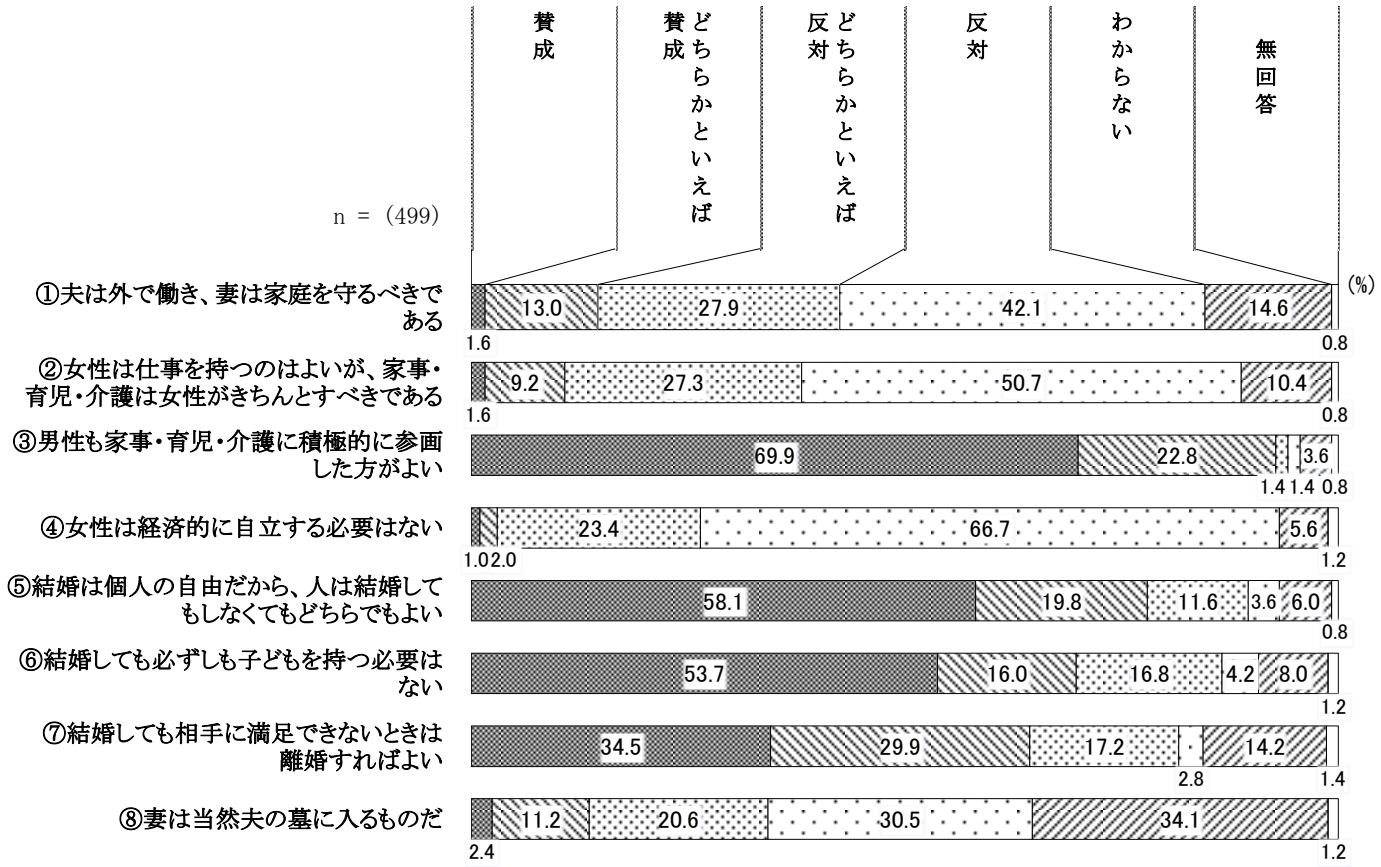
問２　次のような考え方について、あなたの現在のご意見に最も近いものはどれですか。①から⑧のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が約１割（14.6%）、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が７割（70.0%）となっている。『女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』は、＜賛成＞が約１割（10.8%）、＜反対＞が約８割（78.0%）となっている。

『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方について、＜賛成＞が約９割（92.7%）と多くなっており、一方で、『女性は経済的に自立する必要はない』は＜反対＞が約９割（90.1%）と多くなっている。

『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という結婚観については、＜賛成＞が＜反対＞を大きく上回っている。

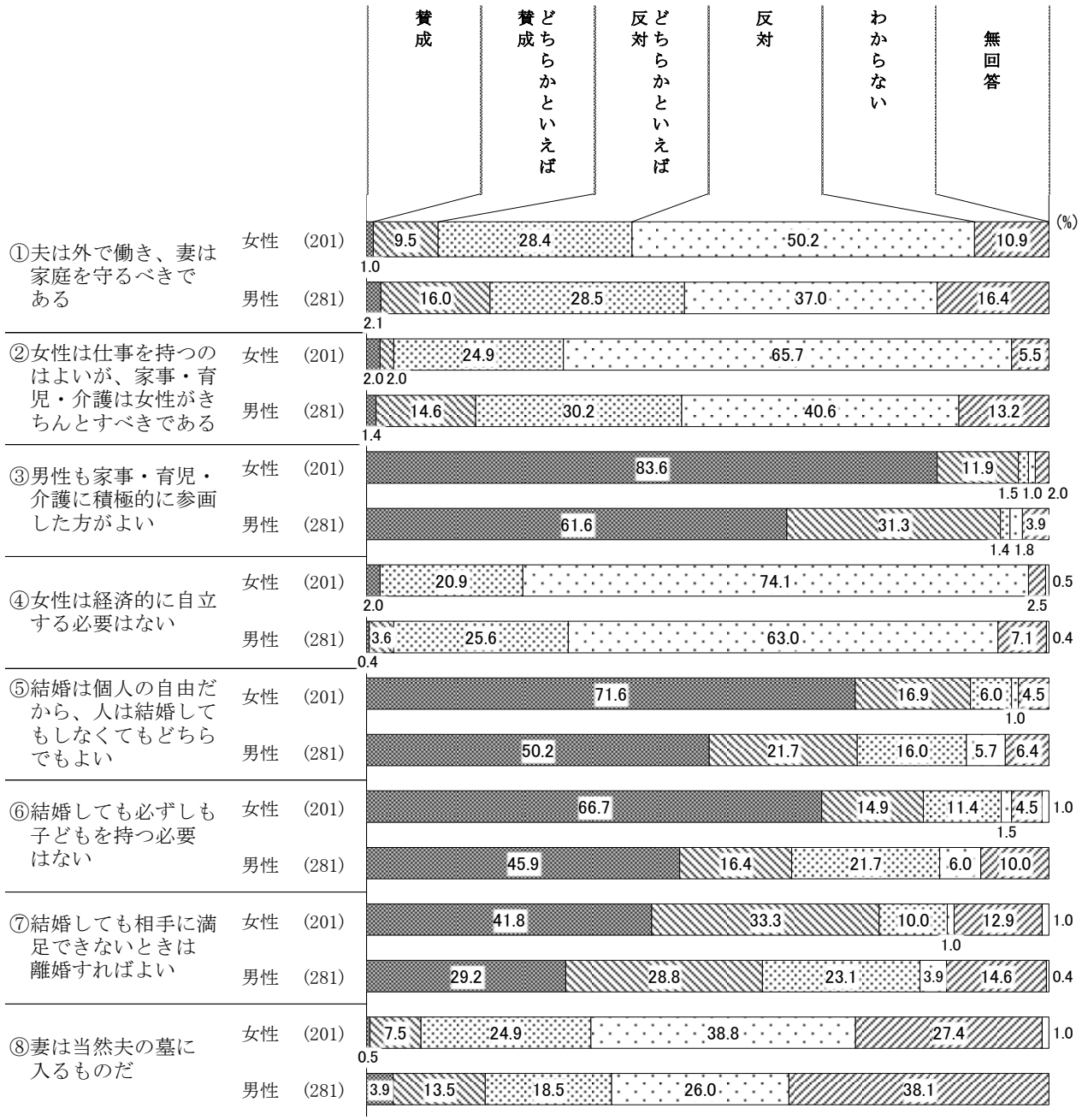
『妻は当然夫の墓に入るものだ』という考え方については、＜反対＞が約５割（51.1%）、「わからない」が約３割（34.1%）と多くなっており、一方で、＜賛成＞が約１割（13.6%）となっている。



■性別役割分担意識　性別

性別にみると、『女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』、『妻は当然夫の墓に入るものだ』という考え方について、＜反対＞は女性が男性を19ポイント以上上回っている。また、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、＜反対＞は女性が男性を約13ポイント上回っている。

『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』、『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方については、女性が男性を16ポイント以上上回っている。

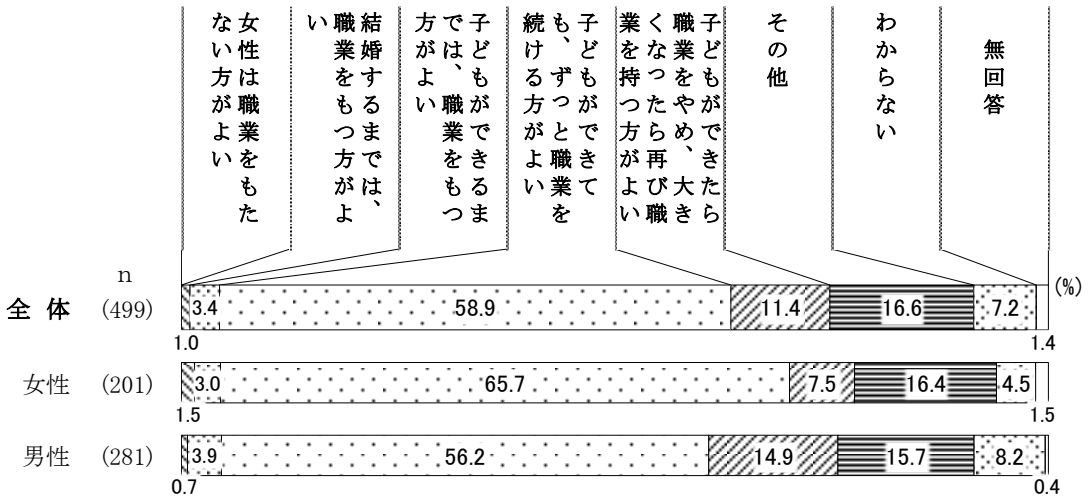


（３）女性が職業を持つことについて

問３－１　一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを１つ選んでください。

女性が職業を持つことについて、＜就業継続型＞（「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」）が約６割（58.9%）と最も多く、次いで＜出産退職・再就職型＞（「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」）が約１割（11.4%）となっている。「その他」も約１割（16.6%）を占めており、個人の自由を尊重すべきといった回答が多く寄せられた。

性別にみると、＜就業継続型＞（「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」）は女性で約７割（65.7%）と、男性（56.2%）を約10ポイント上回っている。＜出産退職・再就職型＞（「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」）は男性で約１割（14.9%）と、女性（7.5%）を約７ポイント上回っている。



型	問３　選択肢
非就労型	女性は職業をもたない方がよい
結婚退職型	結婚するまでは、職業をもつ方がよい
出産退職型	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
就業継続型	子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
出産退職・再就職型	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい

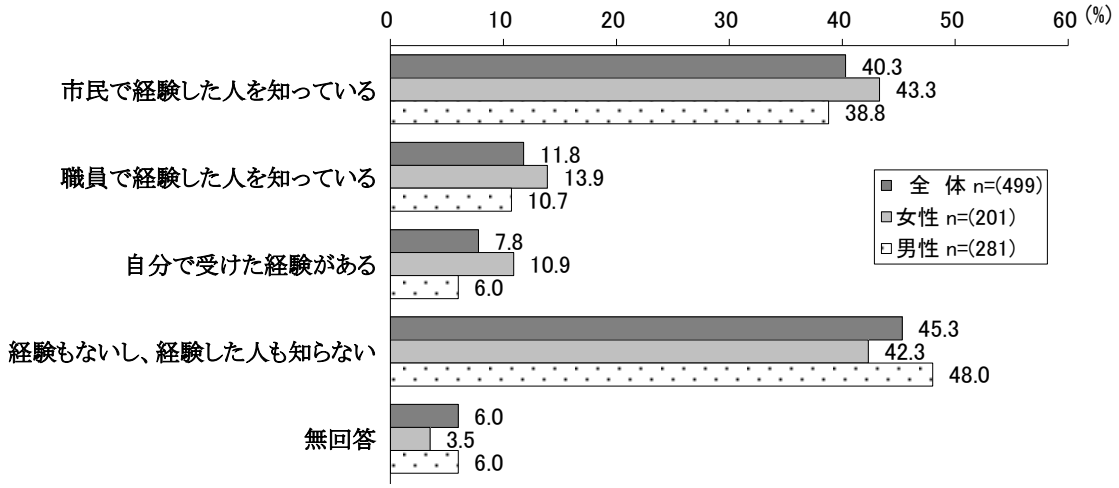
（４）暴力を受けた経験（異性に対する暴力、ＤＶなど）

問４　ＤＶ（ドメスティック･バイオレンス）など、女性（男性）に対する暴力（身体的・精神的・性的）が問題になっています。あなたは、そのような暴力を受けたり、職員・市民が受けているのを見聞きしたことがありますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

暴力を受けた経験（異性に対する暴力、ＤＶなど）について、「経験もないし、経験した人も知らない」が約５割（45.3%）と最も多くなっている。

経験としては、「市民で経験した人を知っている」が約４割（40.3%）、「職員で経験した人を知っている」が約１割（11.8%）、「自分で受けた経験がある」が約１割（7.8%）となっている。

性別にみると、経験としてはすべての項目で女性が男性を上回っている。

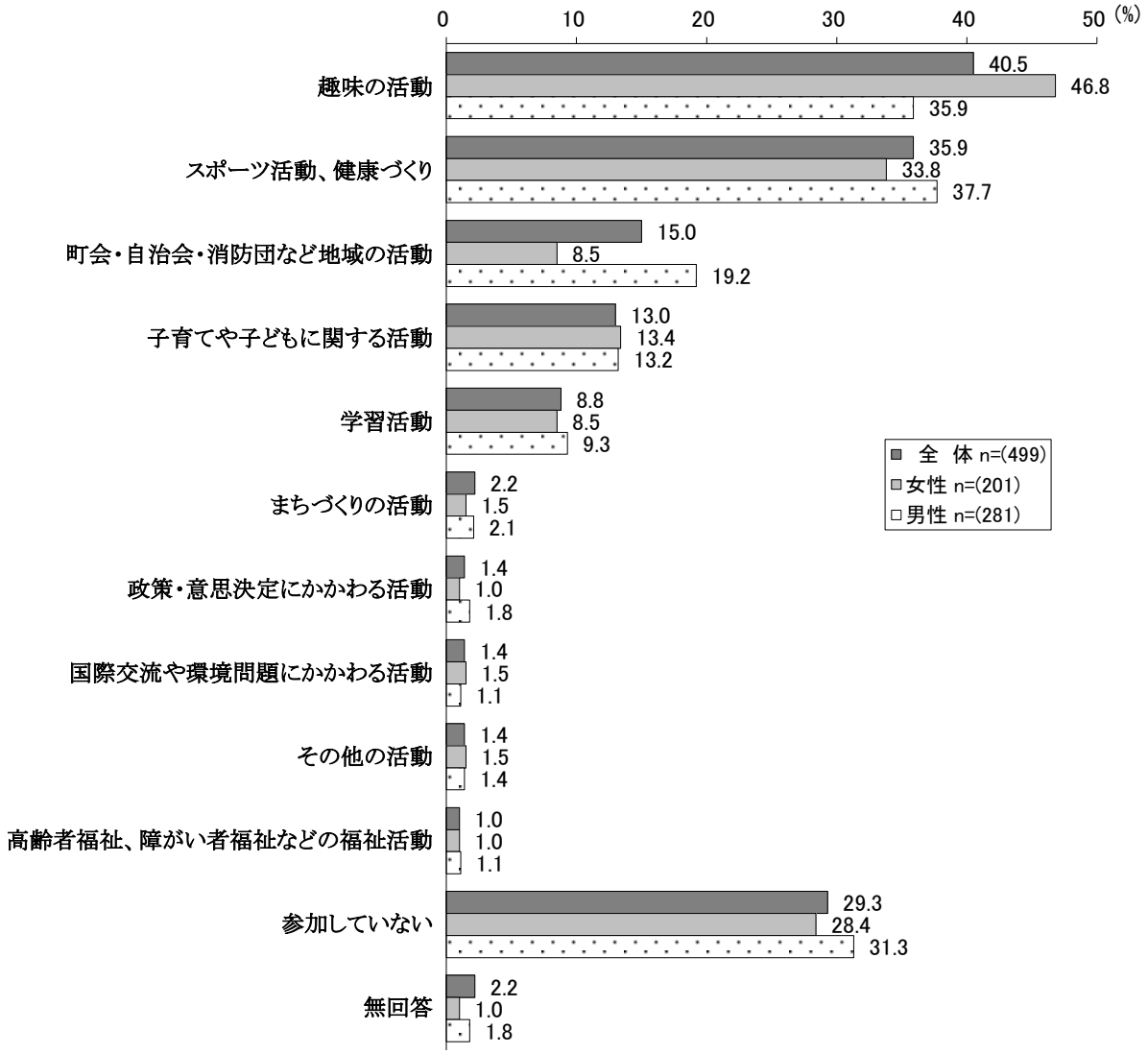


（５）地域や趣味、学習などの活動への参加経験

問５－１　あなたは現在、仕事以外で、地域や趣味、学習などの活動に参加していますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

地域や趣味、学習などの活動への参加経験について、「趣味の活動」が約４割（40.5%）と最も多く、次いで「スポーツ活動、健康づくり」約４割（35.9%）、「町会・自治会・消防団など地域の活動」約２割（15.0%）となっている。また、「参加していない」は約３割（29.3%）となっている。

性別にみると、「趣味の活動」は女性で約５割（46.8%）と、男性（35.9%）を約11ポイント上回っている。「町会・自治会・消防団など地域の活動」は男性で約２割（19.2%）と、女性（8.5%）を約11ポイント上回っている。



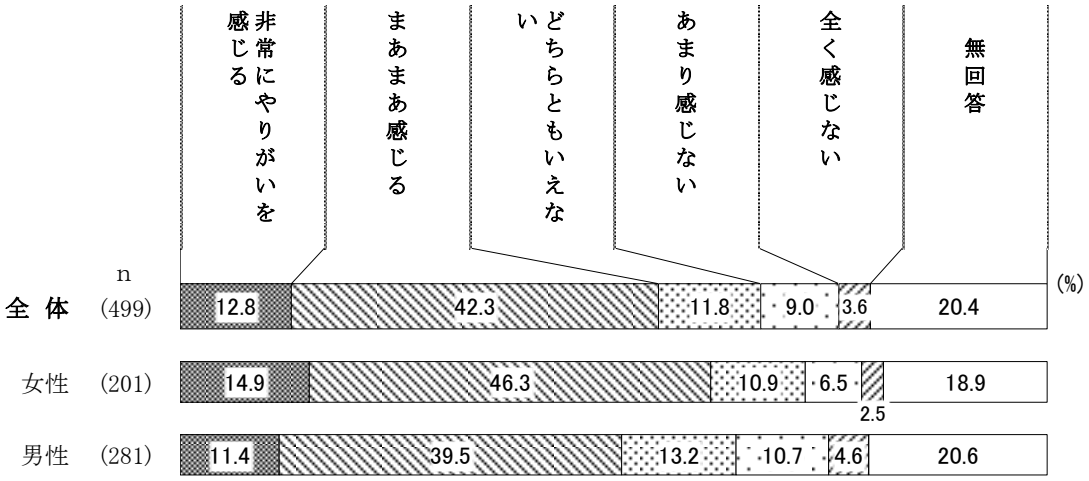
３．あなたの仕事・職場について

（１）仕事のやりがいの有無

問６　あなたは現在の仕事にやりがいを感じていますか。あてはまるものを１つ選んでください。

仕事のやりがいの有無について、＜やりがいを感じる＞（「非常にやりがいを感じる」（12.8%）と「まあまあ感じる」（42.3%）の合計）が約６割（55.1%）、＜やりがいを感じない＞（「全く感じない」（3.6%）と「あまり感じない」（9.0%）の合計）が約１割（12.6%）となっている。また、「どちらともいえない」は約１割（11.8%）となっている。

性別にみると、＜やりがいを感じる＞は女性で約６割（61.2%）と、男性（50.9%）を約10ポイント上回っている。

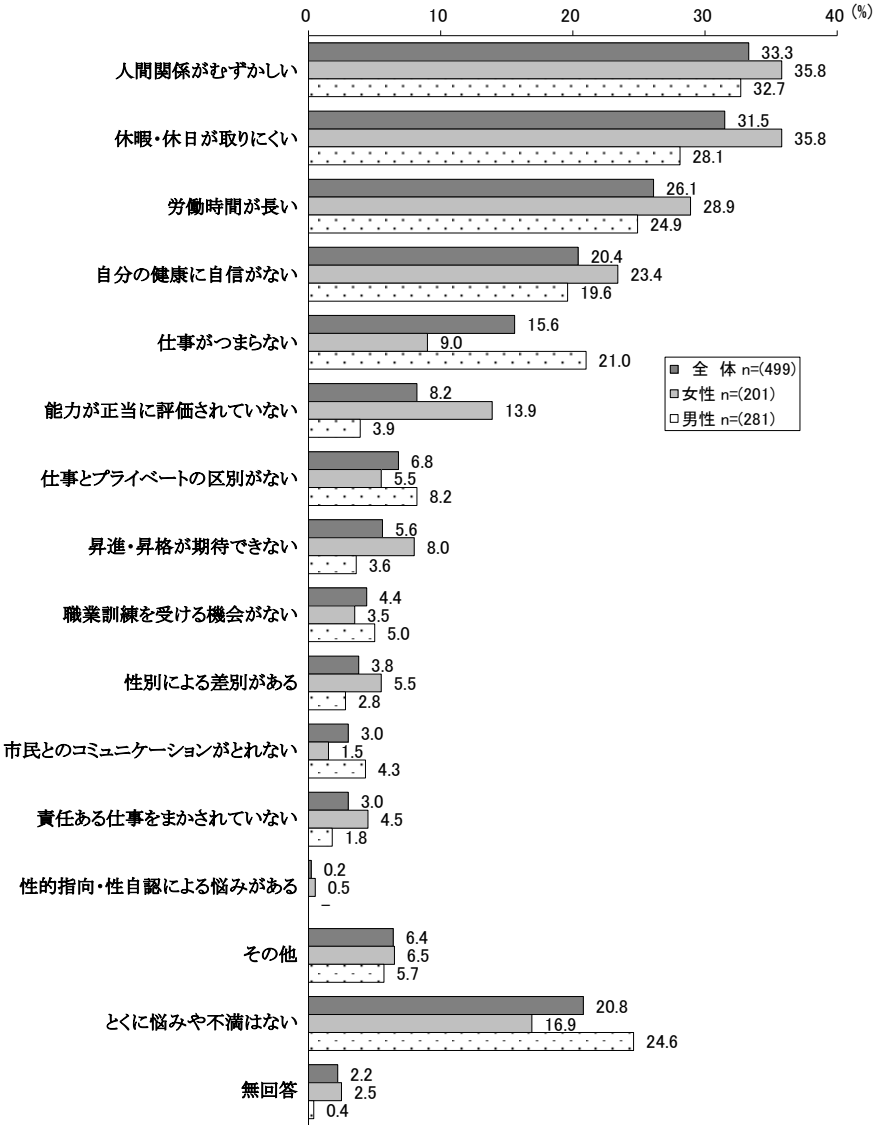


（２）仕事上の悩み

問７－１　あなたが現在仕事で悩みがあるとしたら、それはどのような点ですか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

仕事上の悩みについて、「人間関係がむずかしい」が約３割（33.3%）と最も多く、次いで「休暇・休日が取りにくい」約３割（31.5%）、「労働時間が長い」約３割（26.1%）、「自分の健康に自信がない」約２割（20.4%）となっている。また、「とくに悩みや不満はない」は約２割（20.8%）となっている。

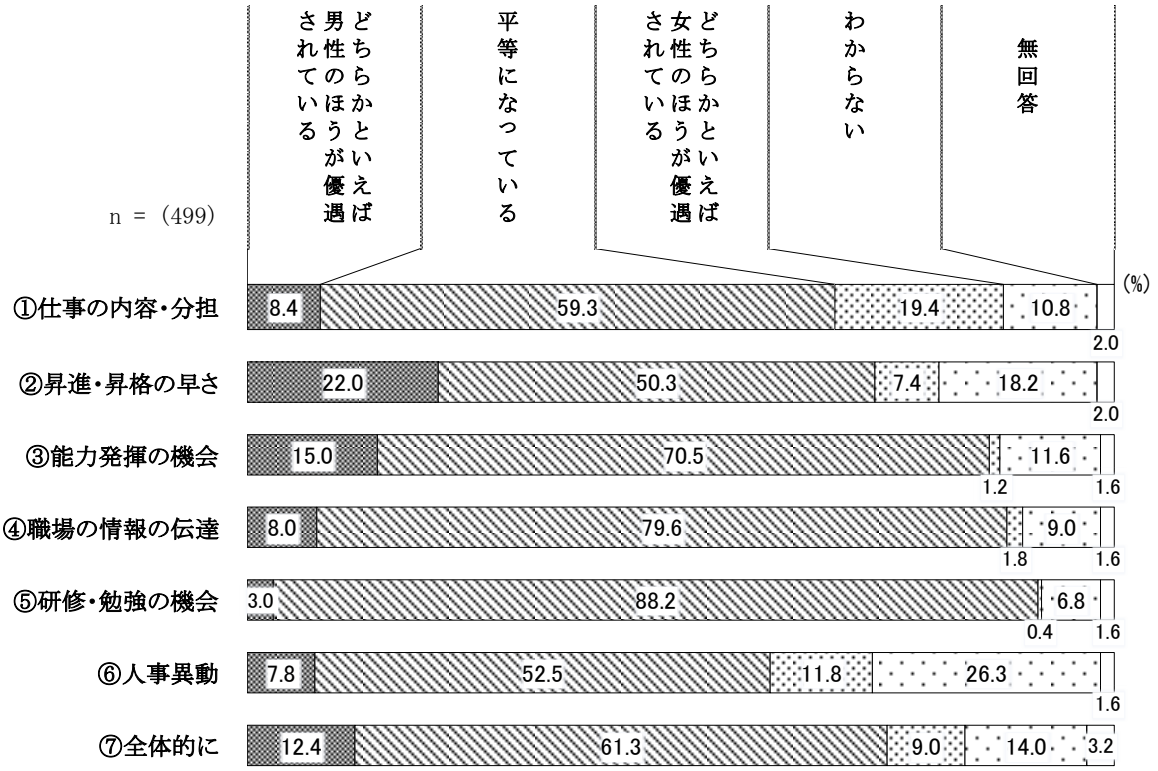
性別にみると、女性で「人間関係がむずかしい」、「休暇・休日が取りにくい」が同値で約４割（35.8%）、「労働時間が長い」が約３割（28.9%）、「自分の健康に自信がない」が約２割（23.4%）と、それぞれ男性を上回っている。また、「能力が正当に評価されていない」は女性で約１割（13.9%）と、男性（3.9%）を10ポイント上回っており、「昇進・昇格が期待できない」は女性で約１割（8.0%）と、男性（3.6%）より約４ポイント、「性別による差別がある」は女性で約１割（5.5%）と、男性（2.8%）より約３ポイント上回っている。「仕事がつまらない」は男性で約２割（21.0%）と、女性（9.0%）より12ポイント、「とくに悩みや不満はない」は男性で約２割（24.6%）と、女性（16.9%）より約８ポイント上回っている。



（３）市役所における男女の地位の平等感

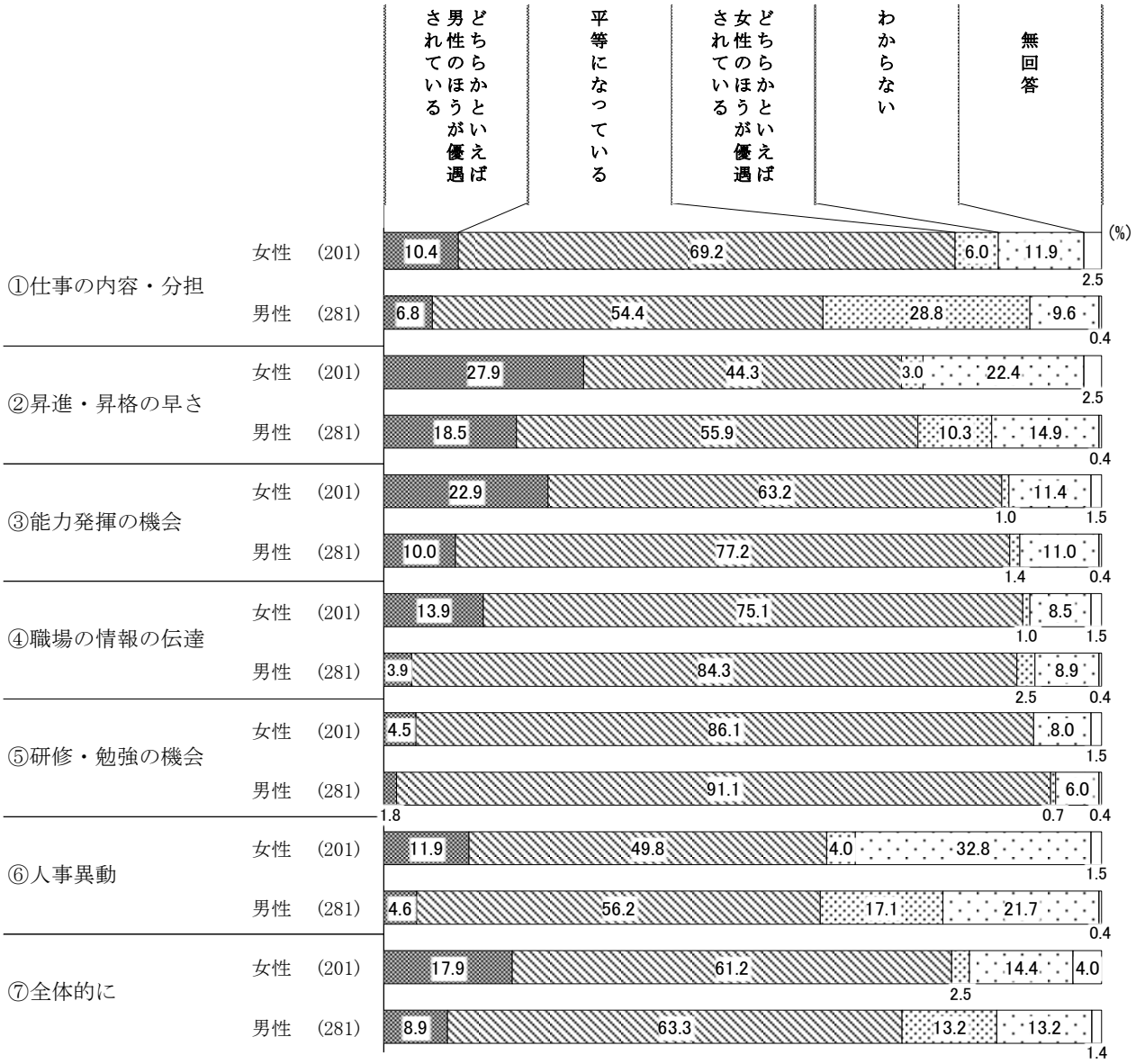
問８　市役所は制度上、男女の差はありませんが、実態はどのように感じますか。①から⑦のそれぞれについて、あてはまるものを１つ選んでください。

市役所における男女の地位の平等感について、「平等になっている」は『研修・勉強の機会』で約９割（88.2%）、次いで『職場の情報の伝達』約８割（79.6%）となっている。『全体的に』では「平等になっている」が約６割（61.3%）となっている。「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は『昇進・昇格の早さ』約２割（22.0%）、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」は『仕事の内容・分担』約２割（19.4%）となっている。



■市役所における男女の地位の平等感　性別

性別にみると、『仕事の内容・分担』で「平等になっている」は女性（69.2%）が男性（54.4%）を約15ポイント上回っている。一方、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」は男性（28.8%）が女性（6.0%）を約23ポイント上回っている。「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、『能力発揮の機会』、『職場の情報の伝達』、『昇進・昇格の早さ』、『全体的に』で女性が男性を大きく上回っている。「平等になっている」は、『仕事の内容・分担』を除くすべての項目で、男性が女性を上回っている。

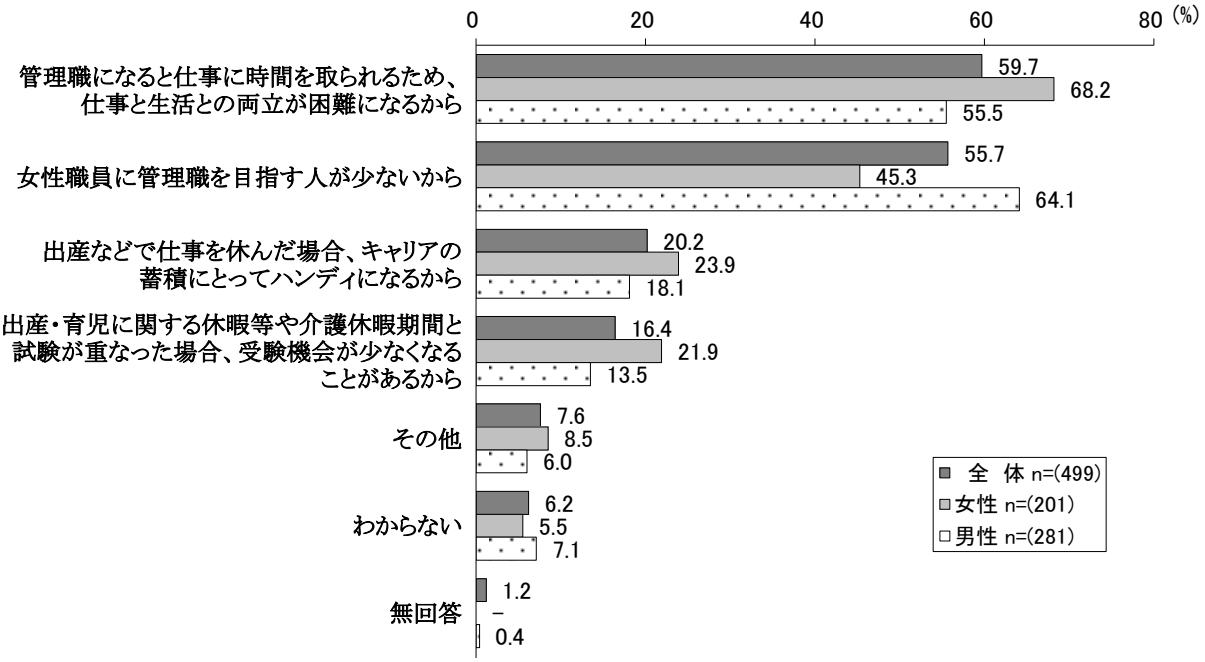


（４）女性管理職が少ない原因

問９－１　多摩市の女性職員（常勤）の構成比は43.2%を占めていますが、管理職のうち女性管理職の比率は18.5%（平成31年４月１日現在）と少ない状況になっています。管理職の登用は男女差のない試験制度となっていますが、女性管理職が少ない原因は何だと思いますか。あてはまるものを２つまでチェックをつけてください。

女性管理職が少ない原因について、「管理職になると仕事に時間を取られるため、仕事と生活との両立が困難になるから」が約６割（59.7%）と最も多く、次いで「女性職員に管理職を目指す人が少ないから」約６割（55.7%）、「出産などで仕事を休んだ場合、キャリアの蓄積にとってハンディになるから」約２割（20.2%）、「出産・育児に関する休暇等や介護休暇期間と試験が重なった場合、受験機会が少なくなることがあるから」約２割（16.4%）となっている。

性別にみると、「管理職になると仕事に時間を取られるため、仕事と生活との両立が困難になるから」が、女性で約７割（68.2%）と、男性（55.5%）を約13ポイント上回っている。「女性職員に管理職を目指す人が少ないから」は、男性で約６割（64.1%）と、女性（45.3%）を約19ポイント上回っている。

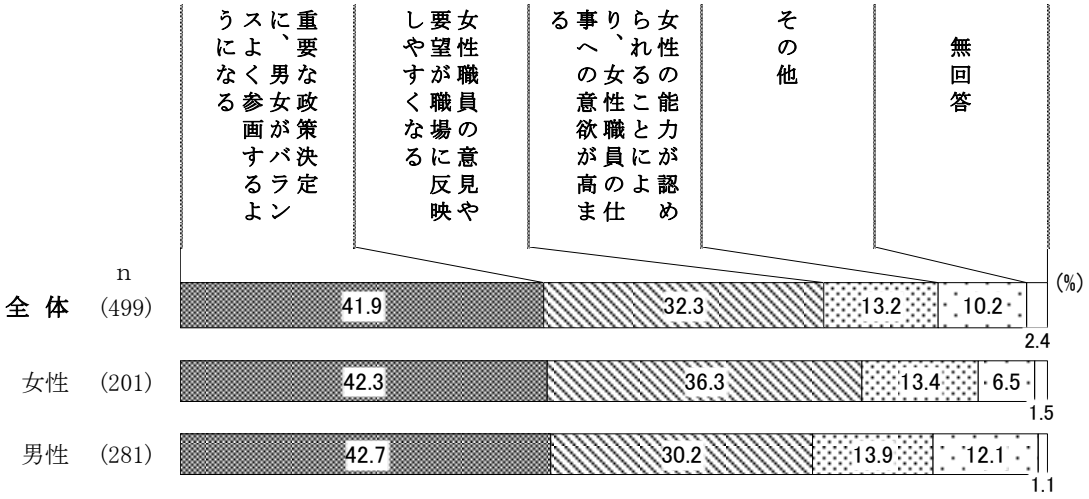


（５）女性管理職が増えることによるメリット

問10－１　多摩市に女性管理職が増えることによって、あなたは、どのようなプラス面があると思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。

女性管理職が増えることによるメリットについて、「重要な政策決定に、男女がバランスよく参画するようになる」が約４割（41.9%）と最も多く、「女性職員の意見や要望が職場に反映しやすくなる」は約３割（32.3%）、「女性の能力が認められることにより、女性職員の仕事への意欲が高まる」は約１割（13.2%）となっている。

性別にみると、「女性職員の意見や要望が職場に反映しやすくなる」は、女性（36.3%）が男性（30.2%）を約６ポイント上回っている。

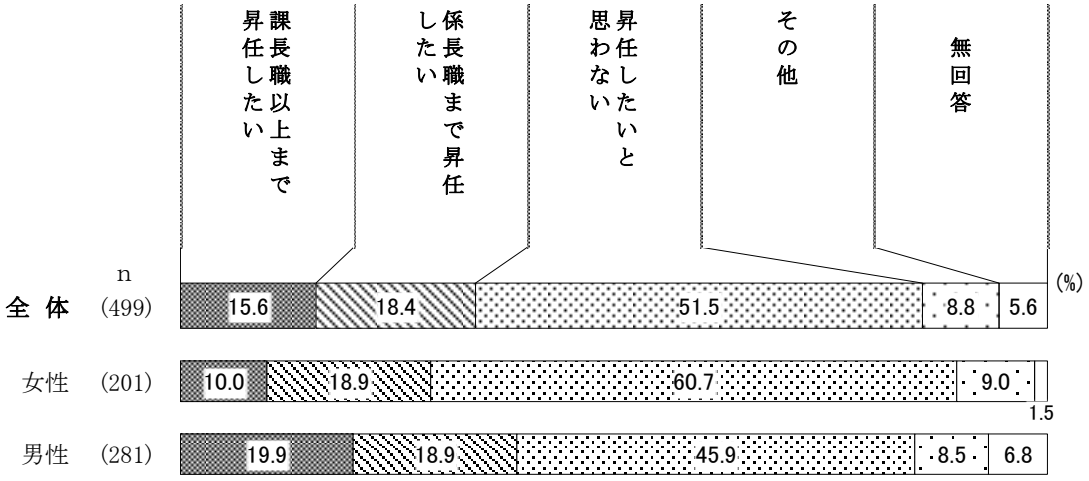


（６）将来就きたい役職

問11－１　あなたは将来、どのような役職に就きたいと思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。※現在すでに部長職の方は回答の必要はありません。

将来就きたい役職について、「昇任したいと思わない」が約５割（51.5%）と最も多く、次いで「係長職まで昇任したい」約２割（18.4%）、「課長職以上まで昇任したい」約２割（15.6%）となっている。

性別にみると、「昇任したいと思わない」は女性で約６割（60.7%）と、男性（45.9%）を約15ポイント上回っている。「課長職以上まで昇任したい」は男性で約２割（19.9%）と、女性（10.0%）を約10ポイント上回っている。

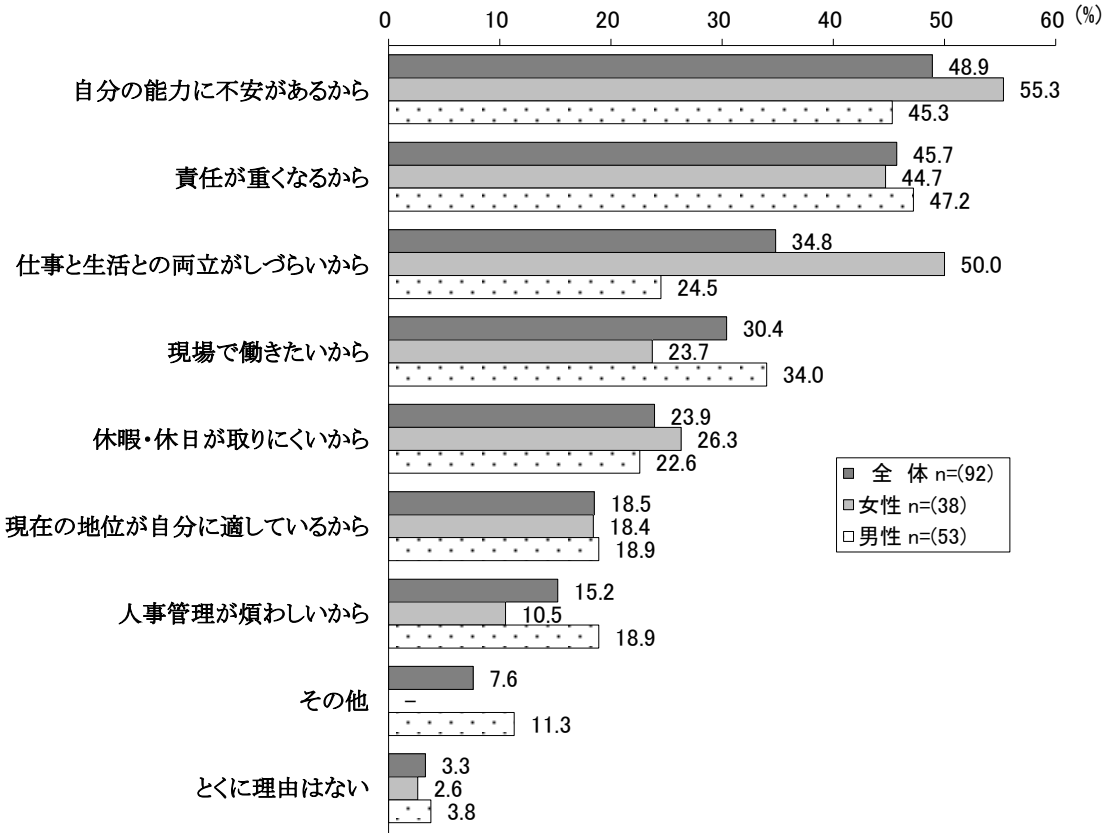


（７）課長職以上になりたくない理由

【問11－１で「係長職まで昇任したい」と答えた方にお伺いします。】
問11－３　課長職以上になりたくない理由は何ですか。あてはまるものを３つまでチェックをつけてください。
注：問11-１で「係長職まで昇任したい」以外に回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

課長職以上になりたくない理由について、「自分の能力に不安があるから」が約５割（48.9%）と最も多く、次いで「責任が重くなるから」約５割（45.7%）、「仕事と生活との両立がしづらいから」約３割（34.8%）となっている。

性別にみると、「仕事と生活との両立がしづらいから」は女性で５割（50.0%）と、男性（24.5%）より約26ポイント、「自分の能力に不安があるから」は女性で約６割（55.3%）と、男性（45.3%）より10ポイント上回っている。「現場で働きたいから」は男性で約３割（34.0%）と、女性（23.7%）より約10ポイント、「人事管理が煩わしいから」は男性で約２割（18.9%）と、女性（10.5%）より約８ポイント上回っている。



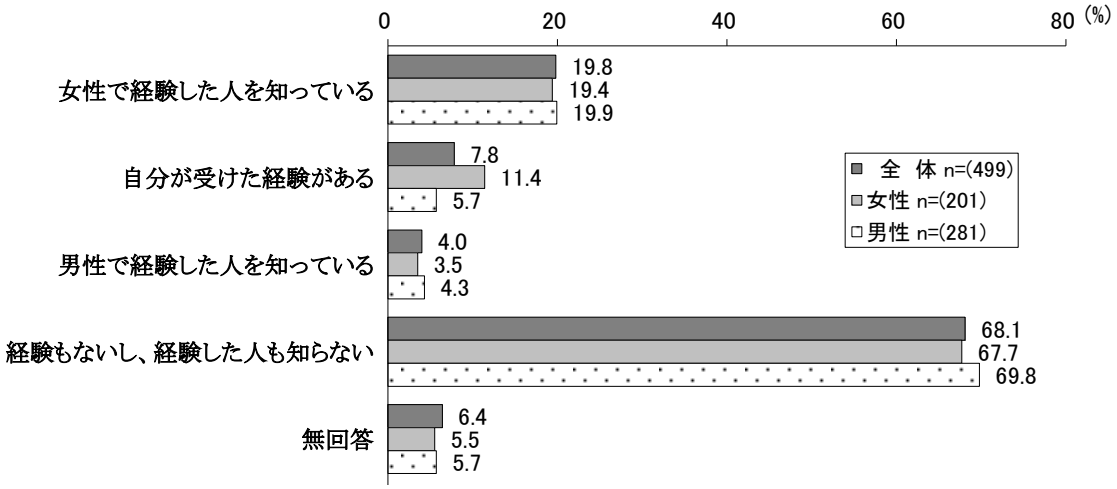
（８）職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問12　この１年間に、職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験、または、職場で経験した人を知っていますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験について、「経験もないし、経験した人も知らない」が約７割（68.1%）と最も多くなっている。

経験としては、「女性で経験した人を知っている」が約２割（19.8%）、「自分が受けた経験がある」が約１割（7.8%）、「男性で経験した人を知っている」が１割未満（4.0%）となっている。

性別にみると、「自分が受けた経験がある」は、女性（11.4%）が男性（5.7%）を約６ポイント上回っている。



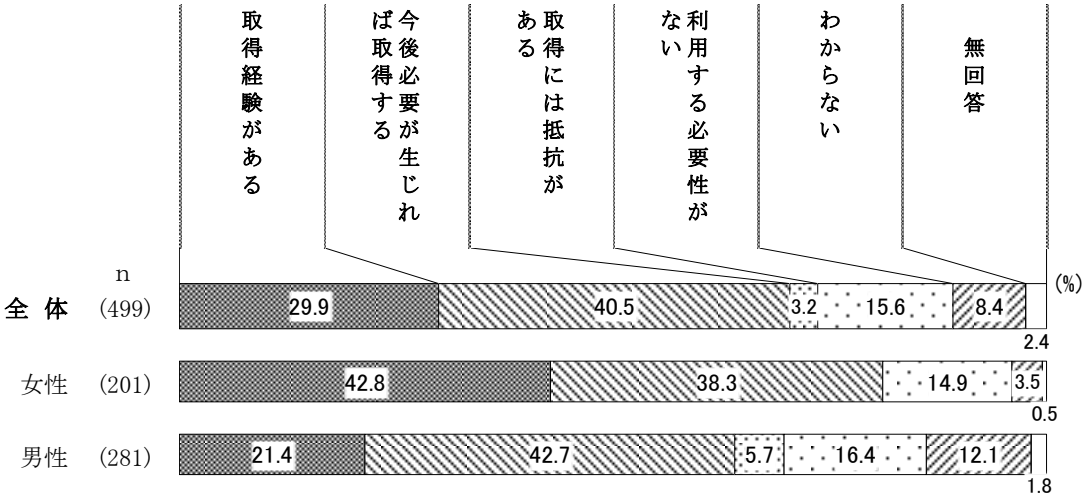
（９）育児・介護休暇の取得・意向

問13－１　出産・育児に関する休暇等や介護休暇は男女とも取得できる制度ですが、あなたの取得経験や意向はどのようなものですか。それぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

（１）出産・育児に関する休暇等

出産・育児に関する休暇等の取得・意向について、「今後必要が生じれば取得する」が約４割（40.5%）と最も多く、「取得経験がある」（29.9%）を合わせると、取得または取得意向がある人は約７割（70.4%）となっている。

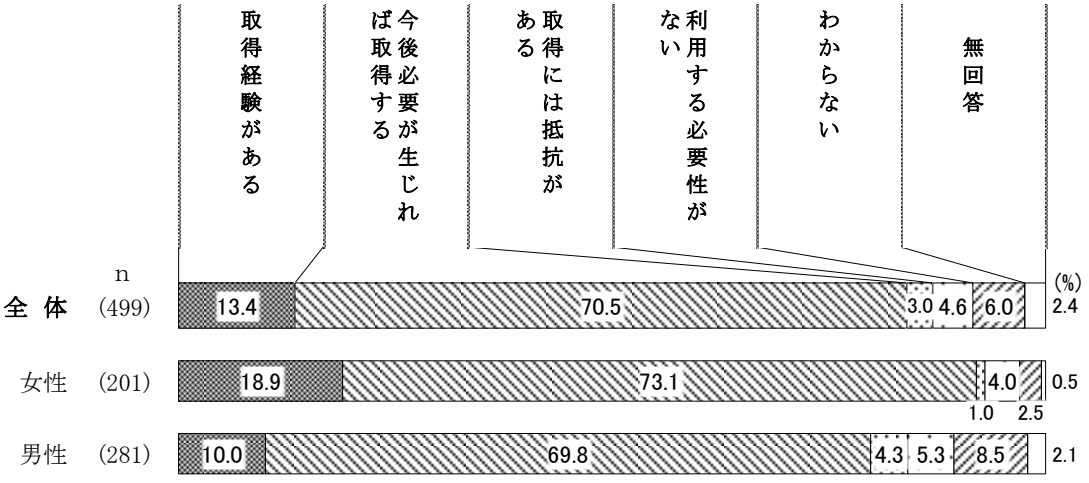
性別にみると、「取得経験がある」は女性で約４割（42.8%）と、男性（21.4%）より約21ポイント多く、「今後必要が生じれば取得する」（38.3%）を合わせると、取得または取得意向がある女性は約８割（81.1%）となっている。「今後必要が生じれば取得する」は男性で約４割（42.7%）と、女性（38.3%）を約４ポイント上回っている。



（２）介護休暇

介護休暇の取得・意向については、「今後必要が生じれば取得する」が約７割（70.5%）と最も多くなっている。

性別にみると、「取得経験がある」は女性で約２割（18.9%）と、男性（10.0%）を約９ポイント上回っている。「今後必要が生じれば取得する」は、女性も男性も同程度となっている。

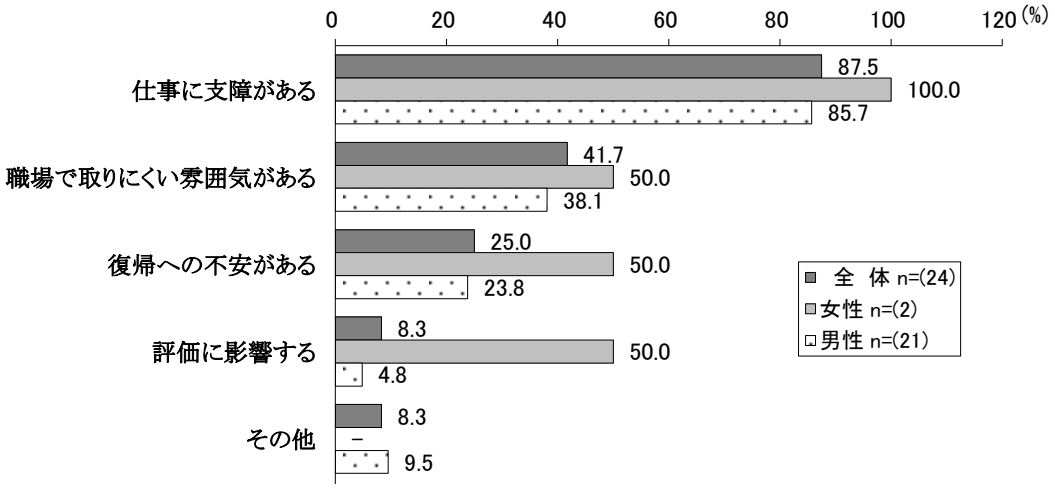


（１０）育児・介護休暇の取得に抵抗がある理由

問13－２　「取得には抵抗がある」と答えた方に伺います。その理由はどのようなことですか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

注：問13-１で（１），（２）とも「取得には抵抗がある」以外を回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

育児・介護休暇の取得に抵抗がある理由について、回答者数が少ないため参考にみると、「仕事に支障がある」が最も多く、次いで「職場で取りにくい雰囲気がある」、「復帰への不安がある」、「評価に影響する」となっている。



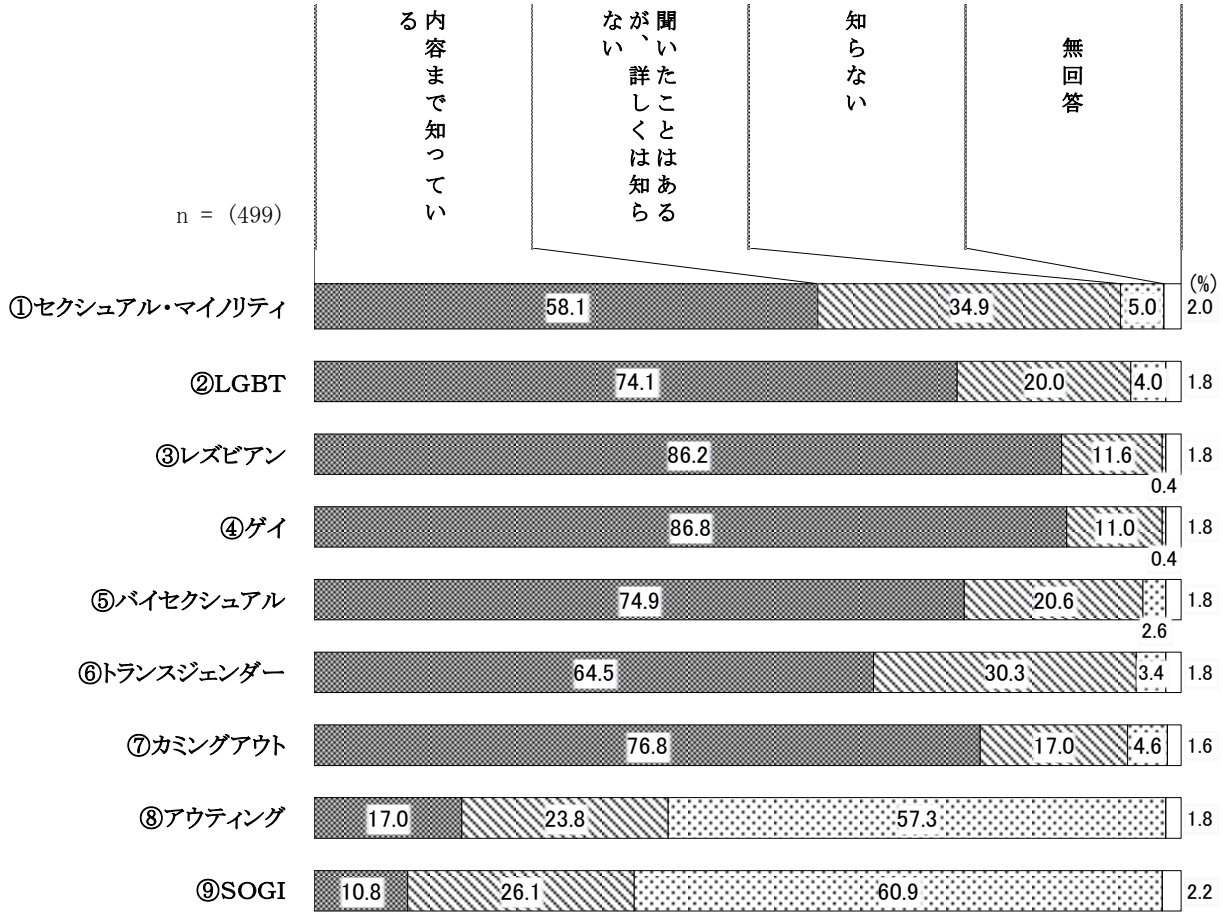
４．性の多様性について

（１）性的少数者に関する言葉の認知度

問14　あなたは、つぎの言葉や意味を知っていますか。①から⑨のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

性的少数者に関する言葉の認知度について、『セクシュアル・マイノリティ』、『ＬＧＢＴ』、『レズビアン』、『ゲイ』、『バイセクシュアル』、『トランスジェンダー』、『カミングアウト』は、「内容まで知っている」が最も多くなっており、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」を合わせると、知っていると回答した人が９割を超えている。

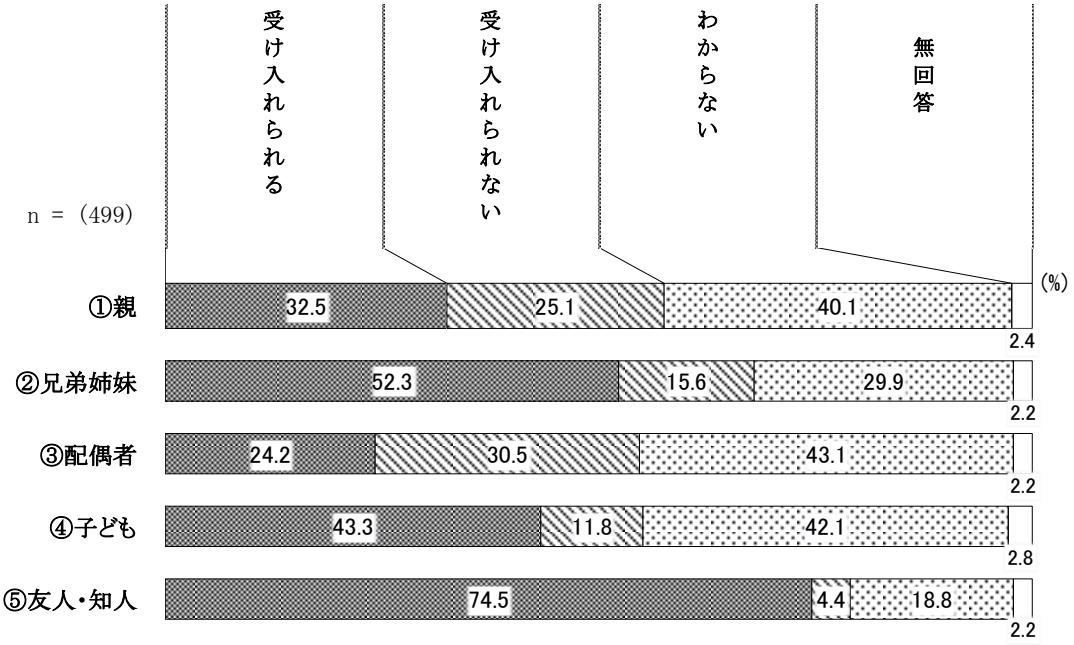
一方で、『アウティング』は約６割（57.3%）、『ＳＯＧＩ』は約６割（60.9%）が「知らない」となっている。



（２）同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性

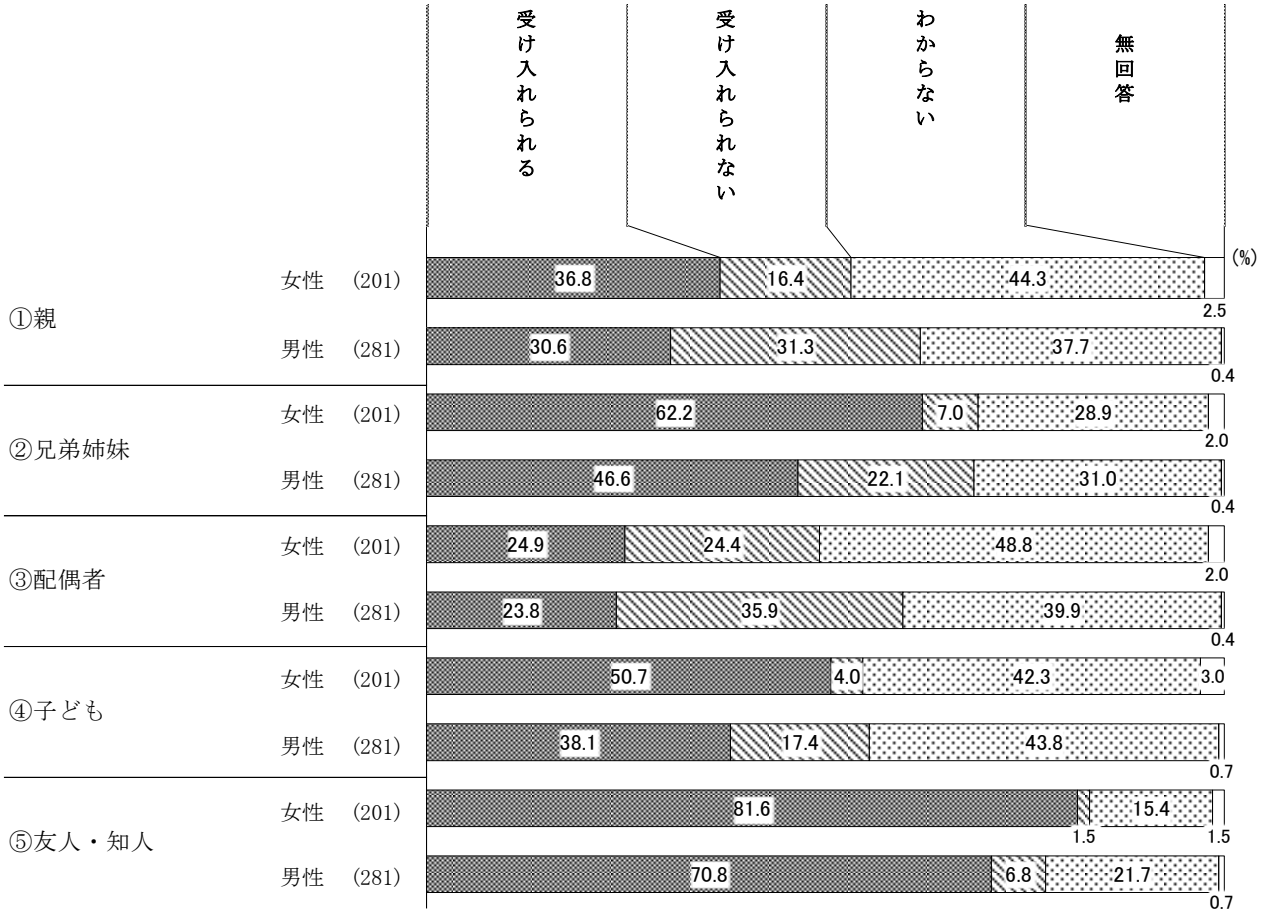
問15　あなたは、身近な人から、「同性が好きである」（同性愛者）や、「自分の性別に違和感を持っている」（トランスジェンダー）などと打ち明けられたとしたら、受け入れられますか。①から⑤のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性について、「受け入れられる」は『友人・知人』で約７割（74.5%）と最も多く、次いで『兄弟姉妹』で約５割（52.3%）となっている。『子ども』は「受け入れられる」（43.3%）と「わからない」（42.1%）が同程度となっている。『親』、『配偶者』は「わからない」が約４割と最も多くなっている。一方、「受け入れられない」は『配偶者』（30.5%）、『親』（25.1%）でそれぞれ約３割となっている。



■同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性　性別

性別にみると、「受け入れられる」はすべての項目で女性が男性を上回っており、特に『兄弟姉妹』は女性で約６割（62.2%）と、男性（46.6%）を約16ポイント上回っている。一方で、「受け入れられない」は、すべての項目で男性が女性を大きく上回っている。



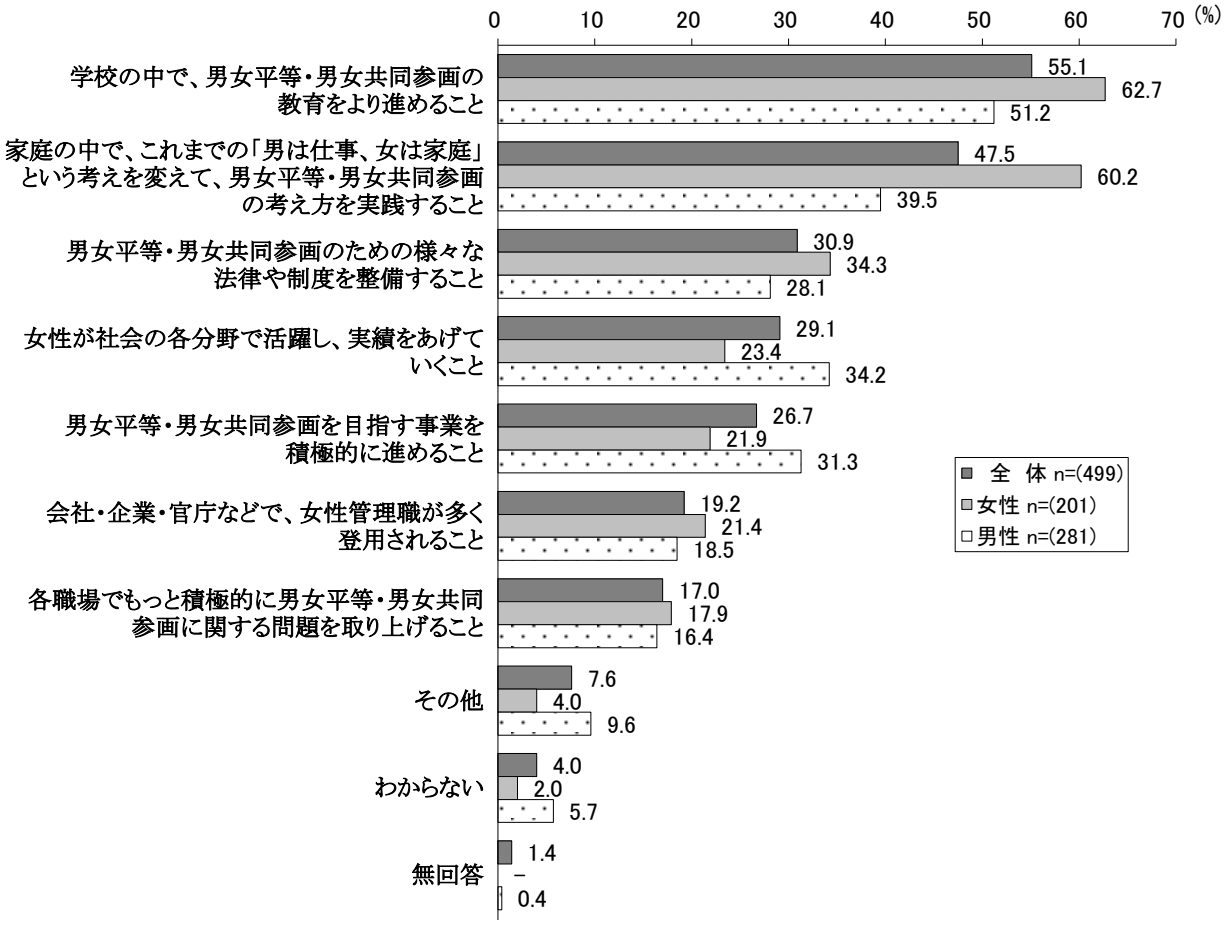
５．男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策について

（１）男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要なこと

問16－１　男女平等・男女共同参画社会を実現していく上で何が大切だと思いますか。あてはまるものに３つまでチェックをつけてください。

男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要なことについて、「学校の中で、男女平等・男女共同参画の教育をより進めること」が約６割（55.1%）と最も多く、次いで「家庭の中で、これまでの『男は仕事、女は家庭』という考えを変えて、男女平等・男女共同参画の考え方を実践すること」約５割（47.5%）、「男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること」約３割（30.9%）、「女性が社会の各分野で活躍し、実績をあげていくこと」約３割（29.1%）、「男女平等・男女共同参画を目指す事業を積極的に進めること」約３割（26.7%）となっている。

性別にみると、「家庭の中で、これまでの『男は仕事、女は家庭』という考えを変えて、男女平等・男女共同参画の考え方を実践すること」は女性で約６割（60.2%）と、男性（39.5%）より約21ポイント、「学校の中で、男女平等・男女共同参画の教育をより進めること」は女性で約６割（62.7%）と、男性（51.2%）を約12ポイント上回っている。「女性が社会の各分野で活躍し、実績をあげていくこと」は男性で約３割（34.2%）と、女性（23.4%）より約11ポイント、「男女平等・男女共同参画を目指す事業を積極的に進めること」は男性で約３割（31.3%）と、女性（21.9%）を約９ポイント上回っている。

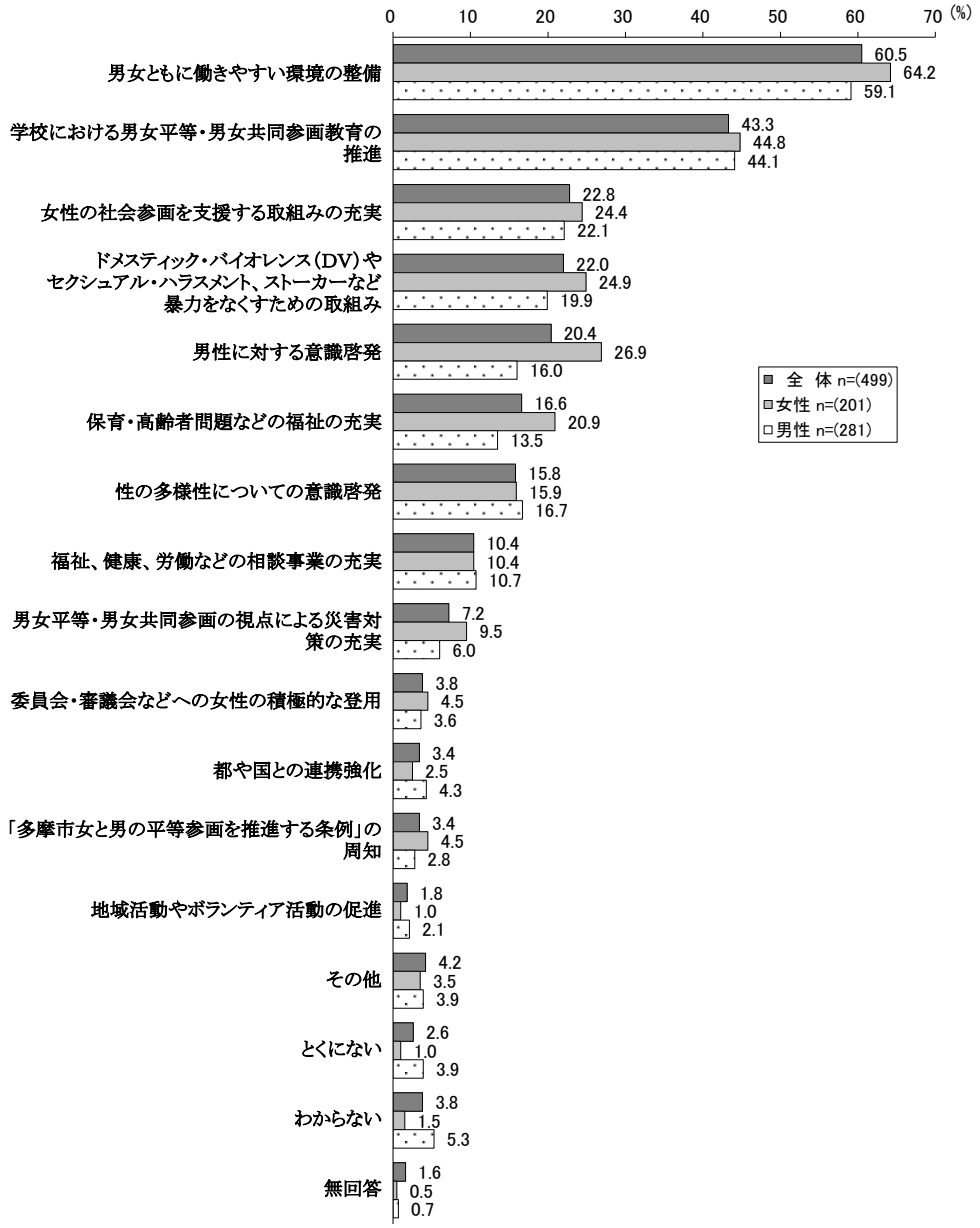


（２）男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な取組み

問17－１　これから多摩市が推進する男女平等・男女共同参画施策のうち、どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。あてはまるものに３つまでチェックをつけてください。

男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な取組みは、「男女ともに働きやすい環境の整備」が約６割（60.5%）と最も多く、次いで「学校における男女平等・男女共同参画教育の推進」が約４割（43.3%）となっている。

性別にみると、「男性に対する意識啓発」は女性で約３割（26.9%）と、男性（16.0%）を約11ポイント上回っている。「保育・高齢者問題などの福祉の充実」は、女性で約２割（20.9%）と、男性（13.5%）より約７ポイント、「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）やセクシュアル・ハラスメント、ストーカーなど暴力をなくすための取組み」は、女性で約２割（24.9%）と男性（19.9%）を５ポイント上回っている。



６．自由記述

男女平等・男女共同参画について、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

男女平等・男女共同参画に関してのご意見として、38人から回答が寄せられた。なお、１人で２つ以上の内容を記入している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

項目	件数
男女平等・男女共同参画について	17
調査・アンケート内容について	9
職場・就労環境について	5
学校教育について	4
意識啓発や、相談事業について	4
市への要望	1
保育・育児について	1
家庭生活・親のあり方について	1
その他	3
計	**45**

７．調査のまとめ

男女平等・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について

結果のまとめ	前回調査との比較
【問１　分野別の男女の地位の平等感】 ・＜男性優遇＞（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）は、『社会通念・慣習・しきたりなど』が約８割（76.1%）、『政治の場』が約７割（72.2%）、『社会全体』が約６割（59.1%）を占めている。 ・『学校教育の場』は、約５割（52.9%）が「平等になっている」で最も多くなっている一方、「わからない」が約３割（29.1%）と次いで多くなっている。 ・「平等になっている」は、すべての分野で男性が女性を上回っている。	・『法律や制度の上』、『学校教育の場』で「平等になっている」が減少している。 ・『社会通念・慣習・しきたりなど』で＜男性優遇＞が減少している。
【問２　性別役割分担意識】 ・『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方は、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が約７割（70.0%）を占めているが、女性が約８割（78.6%）、男性が約７割（65.5%）で女性が男性を約13ポイント上回っている。 ・『女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』という考え方は、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が約８割（78.0%）を占めているが、女性が約９割（90.6%）、男性が約７割（70.8%）で女性が男性を約20ポイント上回っている。 ・『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という結婚観は、それぞれ＜賛成＞が６割以上を占めている。一方、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は約２割となっており、すべての項目で男性が女性を14ポイント以上上回っている。 ・『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方は、男女ともに＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が９割を超えているが、「賛成」は、女性が約８割（83.6%）、男性が約６割（61.6%）で女性が男性を22ポイント上回っている。	・『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方は、＜反対＞が男女ともに増加している。 ・『女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』という考え方は、＜反対＞が男女ともに大幅に増加している。 ・『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方は、＜賛成＞が特に男性で増加している。 ・『妻は当然夫の墓に入るものだ』という考え方は、＜反対＞が男女ともに増加している。

【問３　女性が職業を持つことについて】 ・＜就業継続型＞（子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい）が約６割（58.9%）で最も多くなっているが、女性が約７割（65.7%）、男性が約６割（56.2%）で女性が男性を約10ポイント上回っている。 ・次いで、＜出産退職・再就職型＞（「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」）が約１割（11.4%）となっているが、女性が約１割（7.5%）、男性が約１割（14.9%）で男性が女性を約７ポイント上回っている。	・＜就業継続型＞が男性で増加している。
【問４　暴力を受けた経験（異性に対する暴力、ＤＶなど）】 ・「経験もないし、経験した人も知らない」が約５割（45.3%）で最も多くなっている。 ・次いで、「市民で経験した人を知っている」が約４割（40.3%）、「職員で経験した人を知っている」が約１割（11.8%）、「自分で受けた経験がある」が約１割（7.8%）となっており、経験に関するすべての項目で女性が男性を上回っている。	・「市民で経験した人を知っている」が女性で減少している。
【問５　地域や趣味、学習などの活動への参加経験】 ・「趣味の活動」が約４割（40.5%）で最も多くなっているが、女性が約５割（46.8%）、男性が約４割（35.9%）で女性が男性を約11ポイント上回っている。 ・次いで、「スポーツ活動、健康づくり」が約４割（35.9%）、「町会・自治会・消防団など地域の活動」が約２割（15.0%）となっているが、「参加していない」も約３割（29.3%）となっている。 ・「町会・自治会・消防団など地域の活動」は、男性が約２割（19.2%）、女性が約１割（8.5%）で男性が女性を約11ポイント上回っている。	・「スポーツ活動、健康づくり」が女性で増加している。一方で、「参加していない」は減少している。 ・男性ではあまり変化は見られない。

あなたの仕事・職場について

結果のまとめ	前回調査との比較
【問６　仕事のやりがいの有無】 ・＜やりがいを感じる＞（「非常にやりがいを感じる」と「まあまあ感じる」の合計）が約６割（55.1%）で最も多くなっているが、女性が約６割（61.2%）、男性が約５割（50.9%）で女性が男性を約10ポイント上回っている。 ・＜やりがいを感じない＞（「全く感じない」と「あまり感じない」の合計）は約１割（12.6%）で、「どちらともいえない」も約１割（11.8%）となっている。	・＜やりがいを感じる＞が男女ともに減少している。
【問７　仕事上の悩み】 ・「人間関係がむずかしい」が約３割（33.3%）で最も多くなっている。 ・次いで、「休暇・休日が取りにくい」が約３割（31.5%）、「労働時間が長い」が約３割（26.1%）となっている。 ・「能力が正当に評価されていない」は、女性が約１割（13.9%）、男性１割未満（3.9%）で女性が男性を10ポイント上回っている。 ・「仕事がつまらない」は、男性が約２割（21.0%）、女性が約１割（9.0%）で男性が女性を12ポイント上回っている。 ・「とくに悩みや不満はない」は、女性が約２割（16.9%）、男性が約２割（24.6%）で男性が女性を約８ポイント上回っている。	●新規選択肢追加のため、前回調査との比較は行わない
【問８　市役所における男女の地位の平等感】 ・「平等になっている」は、『研修・勉強の機会』が約９割（88.2%）で最も多くなっており、次いで、『職場の情報の伝達』が約８割（79.6%）となっている。 ・「平等になっている」について、『能力発揮の機会』は女性が約６割（63.2%）、男性が約８割（77.2%）で男性が女性を14ポイント上回っており、『昇進・昇格の早さ』は女性が約４割（44.3%）、男性が約６割（55.9%）で男性が女性を約12ポイント上回っている。	・『昇進・昇格の早さ』で「平等になっている」が男女ともに減少している。 ・『能力発揮の機会』で「平等になっている」が男性で増加している。

結果のまとめ	前回調査との比較
【問９　女性管理職が少ない原因】 ・「管理職になると仕事に時間を取られるため、仕事と生活との両立が困難になるから」が約６割（59.7%）で最も多くなっているが、女性が約７割（68.2%）、男性が約６割（55.5%）で女性が男性を約13ポイント上回っている。 ・次いで、「女性職員に管理職を目指す人が少ないから」が約６割（55.7％）となっているが、女性が約５割（45.3%）、男性が約６割（64.1%）で男性が女性を約19ポイント上回っている。	・「出産などで仕事を休んだ場合、キャリアの蓄積にとってハンディになるから」、「女性職員に管理職を目指す人が少ないから」が男女ともに増加している。 ・「出産・育児に関する休暇等や介護休暇期間と試験が重なった場合、受験機会が少なくなることがあるから」が女性で増加している。
【問10　女性管理職が増えることによるメリット】 ・「重要な政策決定に、男女がバランスよく参画するようになる」が約４割（41.9%）で最も多く、次いで、「女性職員の意見や要望が職場に反映しやすくなる」が約３割（32.3%）、「女性の能力が認められることにより、女性職員の仕事への意欲が高まる」が約１割（13.2%）となっている。	・「女性の能力が認められることにより、女性職員の仕事への意欲が高まる」が減少している。 ・「重要な政策決定に、男女がバランスよく参画するようになる」が女性で減少し、男性ではわずかに増加している。 ・「女性職員の意見や要望が職場に反映しやすくなる」は女性で大幅に増加している。
【問11　将来就きたい役職】 ・「昇任したいと思わない」が約５割（51.5%）で最も多くなっているが、女性は約６割（60.7%）、男性は約５割（45.9%）で女性が男性を約15ポイント上回っている。 ・「課長職以上まで昇任したい」は、男性が約２割（19.9%）、女性が１割（10.0%）で男性が女性を約10ポイント上回っている。	・女性で「課長職以上まで昇任したい」が増加し、「係長職まで昇任したい」は減少している。

結果のまとめ	前回調査との比較
【問11－３　課長職以上になりたくない理由】 ・「自分の能力に不安があるから」が約５割（48.9%）で最も多く、次いで「責任が重くなるから」が約５割（45.7%）、「仕事と生活との両立がしづらいから」が約３割（34.8%）となっている。 ・「自分の能力に不安があるから」は、女性が約６割（55.3%）、男性が約５割（45.3%）で女性が男性を10ポイント上回っている。 ・「仕事と生活との両立がしづらいから」は、女性が５割（50.0%）、男性が約２割（24.5%）で女性が男性を約26ポイント上回っている。 ・「現場で働きたいから」は、男性が約３割（34.0%）、女性が約２割（23.7%）で男性が女性を約10ポイント上回っている。	・「責任が重くなるから」が増加している。 ・女性で「自分の能力に不安があるから」が大幅に増加している。 ・「仕事と生活との両立がしづらいから」が男性で増加している。 ・「現場で働きたいから」が、女性で減少し、男性は増加している。
【問12　職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験】 ・「経験もないし、経験した人も知らない」が約７割（68.1%）で最も多く、次いで「女性で経験した人を知っている」が約２割（19.8%）となっている。 ・「自分が受けた経験がある」は約１割（7.8%）となっているが、女性が約１割（11.4%）、男性が約１割（5.7%）で女性が男性を約６ポイント上回っている。	・男性で「女性で経験した人を知っている」が増加し、「経験もないし、経験した人も知らない」は減少している。
【問13　育児・介護休暇の取得・意向】 ・出産・育児に関する休暇等について、「取得経験がある」（29.9%）と「今後必要が生じれば取得する」（40.5%）を合わせると約７割（70.4%）となっているが、女性が約８割（81.1%）、男性が約６割（64.1%）で女性が男性を17ポイント上回っている。 ・介護休暇について、「取得経験がある」（13.4%）と「今後必要が生じれば取得する」（70.5%）を合わせると約８割（83.9%）となっているが、女性が約９割（92.0%）、男性が約８割（79.8%）で女性が男性を約12ポイント上回っている。	・出産・育児に関する休暇等について、男性で「取得経験がある」、「今後必要が生じれば取得する」が増加している。 ・介護休暇について、女性で「取得経験がある」が増加している。
【問13－２　育児・介護休暇の取得に抵抗がある理由】（※参考値） ・「仕事に支障がある」が最も多く、次いで「職場で取りにくい雰囲気がある」、「復帰への不安がある」、「評価に影響する」となっている。	・すべての項目で増加しており、特に「仕事に支障がある」が大幅に増加している。

性の多様性について

結果のまとめ	前回調査との比較
【問14　性的少数者に関する言葉の認知度】 ・『セクシュアル・マイノリティ』（58.1％）、『ＬＧＢＴ』（74.1％）、『レズビアン』（86.2％）、『ゲイ』（86.8％）、『バイセクシュアル』（74.9％）、『トランスジェンダー』（64.5％）、『カミングアウト』（76.8％）は、「内容まで知っている」が最も多くなっており、特に『レズビアン』（86.2％）、『ゲイ』（86.8％）は約９割を占めている。 ・「知らない」は、『アウティング』が約６割（57.3％）、『ＳＯＧＩ』が約６割（60.9％）で最も多くなっている。	●新規調査項目
【問15　同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性】 ・「わからない」は、『配偶者』（43.1％）と『親』（40.1％）が約４割で最も多くなっている。 ・「受け入れられない」は、『配偶者』が約３割（30.5％）で比較的多くなっている。 ・「受け入れられる」は、『友人・知人』が約７割（74.5％）で最も多く、次いで『兄弟姉妹』が約５割（52.3％）、『子ども』が約４割（43.3％）となっている。 ・身近な人すべての項目で、「受け入れられる」は女性が男性を上回っており、「受け入れられない」は男性が女性を大きく上回っている。	●新規調査項目

男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策について

結果のまとめ	前回調査との比較
【問16　男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要なこと】 ・「学校の中で、男女平等・男女共同参画の教育をより進めること」が約６割（55.1%）で最も多くなっている。 ・次いで、「家庭の中で、これまでの『男は仕事、女は家庭』という考えを変えて、男女平等・男女共同参画の考え方を実践すること」が約５割（47.5%）となっているが、女性が約６割（60.2%）、男性が約４割（39.5%）で女性が男性を約21ポイント上回っている。 ・以下、「男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること」が30.9%、「女性が社会の各分野で活躍し、実績をあげていくこと」が29.1%、「男女平等・男女共同参画を目指す事業を積極的に進めること」が26.7%で約３割となっている。	・「学校の中で、男女平等・男女共同参画の教育をより進めること」、「男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること」が増加している。 ・女性で「女性が社会の各分野で活躍し、実績をあげていくこと」が減少している。 ・「男女平等・男女共同参画を目指す事業を積極的に進めること」が特に男性で増加している。
【問17　男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な取組み】 ・「男女ともに働きやすい環境の整備」が約６割（60.5%）で最も多く、次いで「学校における男女平等・男女共同参画教育の推進」が約４割（43.3%）となっている。 ・「男性に対する意識啓発」は、女性が約３割（26.9%）、男性が約２割（16.0%）で女性が男性を約11ポイント上回っている。	●新規選択肢追加のため、前回調査との比較は行わない

第３章　調査票

調査票

令和元年度男女平等・男女共同参画に関する職員意識及び実態調査

男女平等参画・男女共同参画についての考え方、あなたの日頃の生活について

問１　あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になってると思いますか。
①から⑧のそれぞれについてあてはまるものを１つずつ選んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④地域社会	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6

問２　次のような考え方について、あなたの現在のご意見に最も近いものはどれですか。
①から⑧のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
②女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである	1	2	3	4	5
③男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい	1	2	3	4	5
④女性は経済的に自立する必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
⑥結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑦結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
⑧妻は当然夫の墓に入るものだ	1	2	3	4	5

問３－１　一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
あてはまるものを１つ選んでください。

１．女性は職業をもたない方がよい
２．結婚するまでは、職業をもつ方がよい
３．子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
４．子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
５．子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
６．その他　⇒　3-2 へ
７．わからない

問３－２　問３－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問４　ＤＶ（ドメスティック･バイオレンス）など、女性（男性）に対する暴力（身体的・精神的・性的）が問題になっています。あなたは、そのような暴力を受けたり、職員・市民が受けているのを見聞きしたことがありますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

１．自分で受けた経験がある
２．職員で経験した人を知っている
３．市民で経験した人を知っている
４．経験もないし、経験した人も知らない

問５－１　あなたは現在、仕事以外で、地域や趣味、学習などの活動に参加していますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

１．町会・自治会・消防団など地域の活動
２．趣味の活動
３．学習活動
４．スポーツ活動、健康づくり
５．高齢者福祉、障がい者福祉などの福祉活動
６．子育てや子どもに関する活動
７．政策・意思決定にかかわる活動
８．まちづくりの活動
９．国際交流や環境問題にかかわる活動
10．その他の活動　⇒　5-2へ
11．参加していない

問５－２　問５－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

あなたの仕事・職場について

問６　あなたは現在の仕事にやりがいを感じていますか。あてはまるものを１つ選んでください。

１．非常にやりがいを感じる
２．まあまあ感じる
３．どちらともいえない
４．あまり感じない
５．全く感じない

問７－１　あなたが現在仕事で悩みがあるとしたら、それはどのような点ですか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

１．労働時間が長い
２．休暇・休日が取りにくい
３．昇進・昇格が期待できない
４．能力が正当に評価されていない
５．性別による差別がある
６．市民とのコミュニケーションがとれない
７．人間関係がむずかしい
８．自分の健康に自信がない
９．責任ある仕事をまかされていない
10．仕事とプライベートの区別がない
11．仕事がつまらない
12．職業訓練を受ける機会がない
13．性的指向・性自認による悩みがある
14．その他　⇒　7-2へ
15．とくに悩みや不満はない

問７－２　問７－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問８　市役所は制度上、男女の差はありませんが、実態はどのように感じますか。①から⑦のそれぞれについて、あてはまるものを１つ選んでください。

	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	わからない
①仕事の内容・分担	1	2	3	4
②昇進・昇格の早さ	1	2	3	4
③能力発揮の機会	1	2	3	4
④職場の情報の伝達	1	2	3	4
⑤研修・勉強の機会	1	2	3	4
⑥人事異動	1	2	3	4
⑦全体的に	1	2	3	4

問９－１　多摩市の女性職員（常勤）の構成比は43．2%を占めていますが、管理職のうち女性管理職の比率は１８．５%（平成３１年4月1日現在）と少ない状況になっています。
管理職の登用は男女差のない試験制度となっていますが、女性管理職が少ない原因は何だと思いますか。あてはまるものを２つまでチェックをつけてください。

１．管理職になると仕事に時間を取られるため、仕事と生活との両立が困難になるから
２．出産などで仕事を休んだ場合、キャリアの蓄積にとってハンディになるから
３．出産・育児に関する休暇等や介護休暇期間と試験が重なった場合、受験機会が少なくなることがあるから
４．女性職員に管理職を目指す人が少ないから
５．その他　⇒　9-2へ
６．わからない

問９－２　問９－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問10－１　多摩市に女性管理職が増えることによって、あなたは、どのようなプラス面があると思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。

１．重要な政策決定に、男女がバランスよく参画するようになる
２．女性職員の意見や要望が職場に反映しやすくなる
３．女性の能力が認められることにより、女性職員の仕事への意欲が高まる
４．その他　⇒　10-2へ

問10－２　問10－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問11－１　あなたは将来、どのような役職に就きたいと思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。※現在すでに部長職の方は回答の必要はありません。

１．課長職以上まで昇任したい
２．係長職まで昇任したい　⇒　11-3へ
３．昇任したいと思わない
４．その他　⇒　11-2へ

問11－２　問11－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問11－３　問11－１で「係長職まで昇任したい」と答えた方にお伺いします。課長職以上になりたくない理由は何ですか。あてはまるものを３つまでチェックをつけてください。

注：上の11-1で「係長職まで昇任したい」以外に回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

１．責任が重くなるから
２．人事管理が煩わしいから
３．休暇・休日が取りにくいから
４．現場で働きたいから
５．仕事と生活との両立がしづらいから
６．現在の地位が自分に適しているから
７．自分の能力に不安があるから
８．その他　⇒　11-4へ
９．とくに理由はない

問11－４　問11-３で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問12　この１年間に、職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験、または、職場で経験した人を知っていますか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

１．自分が受けた経験がある
２．女性で経験した人を知っている
３．男性で経験した人を知っている
４．経験もないし、経験した人も知らない

問13－１　出産・育児に関する休暇等や介護休暇は男女とも取得できる制度ですが、あなたの取得経験や意向はどのようなものですか。それぞれについてあてはまるものを１つ選んでください。

（１）出産・育児に関する休暇等
１．取得経験がある
２．今後必要が生じれば取得する
３．取得には抵抗がある　⇒　13-2へ
４．利用する必要性がない
５．わからない

（２）介護休暇
１．取得経験がある
２．今後必要が生じれば取得する
３．取得には抵抗がある　⇒　13-2へ
４．利用する必要性がない
５．わからない

問13－２　「取得には抵抗がある」と答えた方に伺います。その理由はどのようなことですか。あてはまるものにいくつでもチェックをつけてください。

注：問13－１で（１），（２）とも「取得には抵抗がある」以外を回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

１．職場で取りにくい雰囲気がある
２．仕事に支障がある
３．評価に影響する
４．復帰への不安がある
５．その他　⇒　13-3へ

問13－３　問13－２で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

性の多様性について

問14　あなたは、つぎの言葉や意味を知っていますか。①から⑨のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

	内容まで知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	知らない
①セクシュアル・マイノリティ	1	2	3
②ＬＧＢＴ	1	2	3
③レズビアン	1	2	3
④ゲイ	1	2	3
⑤バイセクシュアル	1	2	3
⑥トランスジェンダー	1	2	3
⑦カミングアウト	1	2	3
⑧アウティング	1	2	3
⑨ＳＯＧＩ	1	2	3

問15　あなたは、身近な人から、「同性が好きである」（同性愛者）や、「自分の性別に違和感を持っている」（トランスジェンダー）などと打ち明けられたとしたら、受け入れられますか。①から⑤のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んでください。

	受け入れられる	受け入れられない	わからない
①親	1	2	3
②兄弟姉妹	1	2	3
③配偶者	1	2	3
④子ども	1	2	3
⑤友人・知人	1	2	3

男女平等・男女共同参画社会を実現するために必要な施策について

問16－１　男女平等・男女共同参画社会を実現していく上で何が大切だと思いますか。あてはまるものに３つまでチェックをつけてください。

１．男女平等・男女共同参画を目指す事業を積極的に進めること
２．女性が社会の各分野で活躍し、実績をあげていくこと
３．会社・企業・官庁などで、女性管理職が多く登用されること
４．各職場でもっと積極的に男女平等・男女共同参画に関する問題を取り上げること
５．男女平等・男女共同参画のための様々な法律や制度を整備すること
６．家庭の中で、これまでの「男は仕事、女は家庭」という考えを変えて、男女平等・男女共同参画の考え方を実践すること
７．学校の中で、男女平等・男女共同参画の教育をより進めること
８．その他　⇒　16-2へ
９．わからない

問16－２　問16－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

問17－１　これから多摩市が推進する男女平等・男女共同参画施策のうち、どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。あてはまるものに３つまでチェックをつけてください。

１．学校における男女平等・男女共同参画教育の推進
２．女性の社会参画を支援する取組みの充実
３．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）やセクシュアル・ハラスメント、ストーカーなど暴力をなくすための取組み
４．男性に対する意識啓発
５．福祉、健康、労働などの相談事業の充実
６．男女ともに働きやすい環境の整備
７．委員会・審議会などへの女性の積極的な登用
８．地域活動やボランティア活動の促進
９．保育・高齢者問題などの福祉の充実
10．性の多様性についての意識啓発
11．男女平等・男女共同参画の視点による災害対策の充実
12．都や国との連携強化
13．「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」の周知
14．その他　⇒　17-2へ
15．とくにない
16．わからない

問17－２　問17－１で「その他」を選択した場合には、具体的に記述してください。

【最後に】
男女平等・男女共同参画について、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

フェイスシート

Ｆ１　あなたの自認している性別は次のうちどれですか。

１．女性　　２．男性　　３．その他

Ｆ２　あなたの年齢は次のうちどれですか。

１．18～19歳　　５．35～39歳　　９．55～59歳
２．20～24歳　　６．40～44歳　　10．60～64歳
３．25～29歳　　７．45～49歳　　11．65～69歳
４．30～34歳　　８．50～54歳

Ｆ３　あなたの家族構成（同居）は次のうちどれですか。

※本調査では、婚姻届は出していないが、パートナーと共同生活をしていることを「事実婚」と呼びます。

１．一人暮らし
２．夫婦のみの一世代同居（事実婚＊を含む）
３．二世代・三世代同居（親と子ども、親と子ども夫婦、親と子ども夫婦と孫など）
４．その他

Ｆ４－１　あなたは現在、結婚（事実婚含む）をしていますか。

１．している　⇒　Ｆ４－２へ　　２．していない

Ｆ４－２　Ｆ４－１で結婚(事実婚を含む）していると回答された方に伺います。ご夫婦の働き方は次のうちどれですか。

注：上の問いF4-1で結婚（事実婚含む）をしていないと回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

１．夫だけ（妻だけ）が働いている
２．共働きである
３．その他

Ｆ５－１　あなたにお子さん（別居含む）はいますか。

１．いる　⇒　Ｆ５－２へ　　２．いない

Ｆ５－２　F5-1でお子さん（別居含む）がいる方に伺います。末子の年代は次のうちどれにあたりますか。

注：上の問いF5-1でお子さんがいないと回答された方は、この設問の回答は不要です。回答しても集計されません。

１．１歳未満
２．１～３歳未満
３．３歳以上の未就学児
４．小学校１～３年
５．小学校４～６年
６．中学生
７．高校生以上（社会人を含む）

Ｆ６　あなたの職務区分を教えてください。

１．部長職・課長職　　２．係長職　　３．係員

Ｆ７　あなたのお住まいの地域を教えてください。

１．多摩市　　２．多摩市以外

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

印刷物番号
２－２９

令和元年度男女平等・男女共同参画に関する多摩市職員意識及び実態調査報告書

令和２年１１月

頒布価格　180円

多摩市 くらしと文化部 平和・人権課

〒206－0011　東京都多摩市関戸四丁目72番地
ヴィータ・コミューネ７階
電 話　０４２（３５５）２１１０